尾張名所圖會

後編

二

ル 4
3376
9

門ル4 3376 9

門呂ル 228 9

尾張名所圖會後編卷之二

目録 中島郡下

尾張大國靈神社　末社　神主
夜難負の図　大御靈神社
宗形神社　修理若御子社
大江匡衡教導の図　金名神社
伊奈波名神社　天背男命窟居跡
久多神社　長杜天神社
專正寺　中島郷
光堂橋　萩原驛
觀音寺　鞆江神社
玉江御厨　信長公富田道場ゟ至りの事
例祭　難負捕の図
社僧盛德院　大日堂
國衙廳館跡　學校跡
觀音寺　稲葉驛
禪源寺　齋所權介成清
久田氏宅址　菖部天神社
木全又左衛門宅址　長隆寺
中島左衛門尉宣長　串作の里
萩原川　吉藤里
名産生姜　聖德寺舊跡
起驛　起川

頸長寺　堤治神社　吉田權現社　木曽川普請陣屋跡
性海寺　蒙古降伏修法の図　長谷部氏宅址
千代氏御園　千代名神社　土宮大明神社　桂林寺
大中臣安長塚　八面森　愛智御曹司八面鬼と双六を打図　馬橋
益田森　加納院　東源寺林　無量光院
増田右衛門尉長盛　縣宮
堀田尾張守之高　大屋中三安資　浄土寺古跡　瀧川氏城跡
小富士塚　大富士塚　裳咋神社　敢臣船主
坂手神社　塩門天神社　願應寺　賣夫神社
屯倉舊跡　生菜神社　牛頭天王社　一時上鵜の図
長福寺　國分寺廃跡　鈴置地神社　圓光寺
圓興寺　名産大根切干　船橋舊跡　船橋觀音堂
國鎮寺　白山權現社　山口保　野見神社廃跡

浅井神社廃跡　河俣下天神社　善應寺　八劔社
布智神社　正琳寺　王塚　徳永法印城墟
八劔宮社　伊福部御厨　塩江神社　中野渡
名産櫻鮠　永張寺　神明社　祖父江古城址
祖父江竿鷹　長岡莊　轟川　皇大明神社
栁御園　神明社　地泉院

尾張大國靈神社 ふ府宮村 延喜神名式ふ尾張大國靈神社本國帳ふ從一位尾張大國靈大名神と志ほ奉り 今ハ國府宮總社大明神と称し奉る 抑尚往ハ本州の国靈ふして尊神 大己貴命 往昔五月六日此地にわりまして中島直の祖天背男命と契約しまし凶暴と鎮めまふ所の御神なり 光仁天皇の宝亀二年二月十三日官符をくだして宮造と定めらい 文徳天皇の仁壽三年六月官社ふ列しまいしより代々の進冠もわたくしいたして 後鳥羽帝の文治二年三月從一位 土御門帝の建仁元年二月正一位の神階ふハすゝ給ひ 亀山帝の弘長元年宮号の宣下ありこれより神徳日々に弥増り霊験殊ふ著し 妙典寺に所蔵する嘉禄元年八月の廳宣にも一國之總社府中勸請之敬神と志る見ゆ 國中の四民尊崇ゝ神廟ゝり

文徳實録云 仁壽三年六月丁卯以二尾張國大國靈神大御靈神憶感神等列官社

○本社 南向 祭神 大国靈命 大己貴命の別称 伊弉冊尊 天照大神 素盞嗚尊 稲田姫命 活玉依姫命 手摩乳神 足摩乳神等と合セまつる 拝殿 楼門と

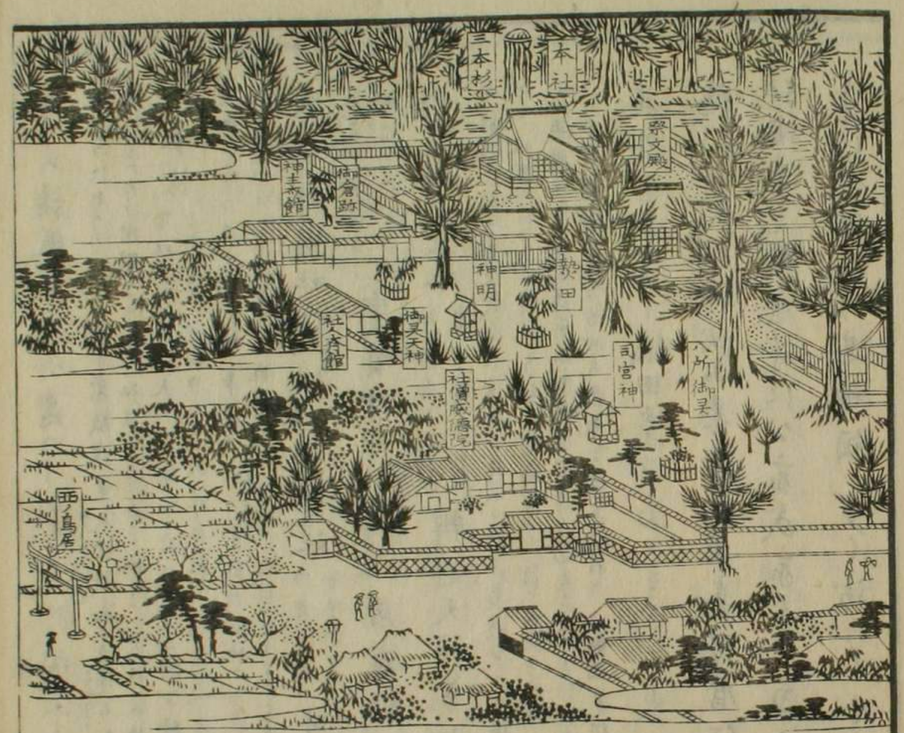
國府宮

遺廟依松柏
居然太古風
蒸民仍粒食
誰道非神功

阿部伯孝

清社のうちに
三株の杉樹ありて
られん面白き
清沢林と名ひ
なるよう高沢
柳瀬郎中吉
連秀写名人
ありにけり三
臨清国郡乃
清水を思ひ出
しまして
信景

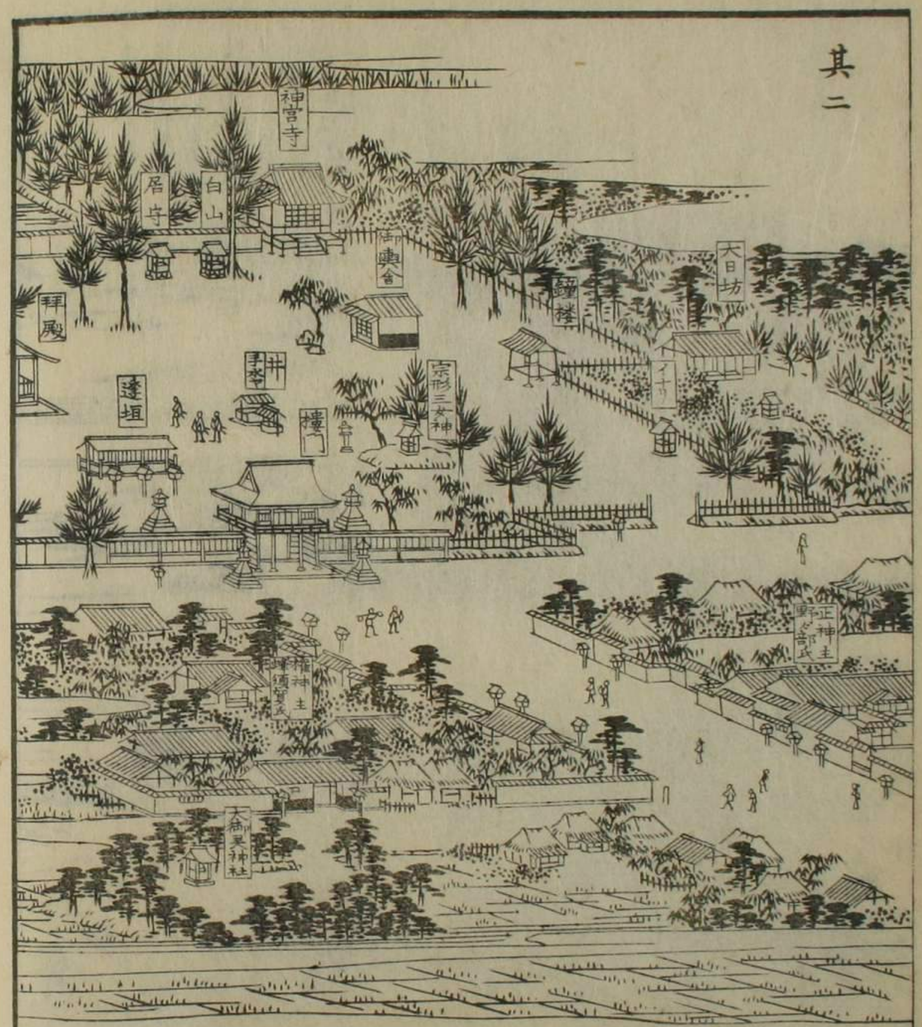
ひもとる沢の
志ゑの
跡ちて
栄代
重ねん
杉乃社里



天保七年酉申ノ歳世の中
さくさくしくれ其年の十二月
祈年祭ばかり御唐まそ
おそ〳〵まゐる事て

世事一や是律寺の
つゆうけ

沙鷗



尾張のや
大ぶ重の
さくらうひて
やまぶきの
匂いさく
ゆる

我岳

ちの諸殿巌を小建つゝあるを狩岡上と照り見るべし　畳石 本社の庭端にあり

のうちにありて社家等が崇敬の是大穴持命の像石なるべし能登國羽咋郡に大穴持像石

神社とあり同例なり偖小弘法の墓石と称して大師の故事となるは誤なるべし君山録云

三本杉 なしのみにあり大巳貴命と称ふ杉を神木 政所 本社の高南の方にあり

大数なり正月十三日の祈事 正月 東西二十六間南北八間の

六日の夕なり宮氏殿なりて執行ふ 古陵 政所の北にあり 大国主命の御陵ともまた天背男命

末社 神明社 國常立尊 天神社 少彦名命 司宮神社 猿田彦命 熱田社 日本武尊

とあり今社なり 宇賀神社 俗に稲荷社と云ふ 居森社 津島の居森 白山社 菊理姫命

柳本と称ふ

八所御霊社 今社なり神と称ふて神祭の奴婢の社なり公式令に諸国の祭礼の負数とのみ続日本紀以下の国史 辨財天社等あり ○神竇 大鈴一 大鳴と名づく往古

諸国の社なり天くなり国廳にあり社の当社の玄あるべしなり

一 正月の条礼の改所の初祭猿田彦の面も称して社家の輩珠にも条次改事要畧の十

二月追儺の条に方相氏疫鬼と追ふ図あり此假面方相氏の類して殆しき古器なり

其外古物多く織田豊臣あるまゝ 東照宮及び 性高院君より

賜ひし制札状ハ甚多く又嘉禄暦仁等の廳宣をもつて建武

弘安嘉元暦應等に公家武家より当社へ寄進の譲状を多く所無

寺に持伝へしより甚神領ハ多く絶りて今ハ退転あり ○例祭 神前

奉幣 正月元日寅刻 祈主 社家中祈前に拝礼 十二月 朝より祈願を撤す

祈主奉幣のうち洋殿より祈願を奉幣 天下泰平 五穀成就の祈願

日辰刻祈主方祈願方の初夜祈願方の初夜祈願を奏し天下泰平五穀成就の祈願

ゆく竹ゆく作りと祈願方の使人を遣はして祭礼を祈願して

を宅ゆて是をとうて祈願 祈願 難負神事 同十三日 俗に難追祭と云 年中行事故實考に当社國府

ゆて加ふる人なり 宮の難負神事あり是は吉祥悔過の条にて上古国分

寺ゆく行ふ人なり行脚の人と云 の祝詞ちゆて是と行ふ又和州長谷寺は二月修正の法を修法者ゆ熱田の祈願ちゆて四月五日

修正と行ひ鬼と追ふ云ふ俗説の難負条と人々のやうに云ふ者なり村民と云て用ふ

怪世の誤りなり国府宮の廳ゆ用ふる物ハ唐画の吉祥天女なり社家の事ハ稲田氏の物なり

云ふ清ゆの国分寺ゆて吉祥天悔過の法を修ふ寺ゆ ○續日本紀の天平神護元年正月巳亦

の条三代実録の元慶元年八月の記ゆ見て修正の法と行ふ事ハ吾妻鏡の義元三年四月

見ふ云ふ祈氏祈ふ今行ふ所ハ土日卯刻 初夜の宅へ社家集会 難追捕の首途として芋一毛の

新麦と称し祝賀の古実なり同日 政所廳舎ゆ高本の祈願と建十二日戌刻 初夜の宅へ祈主社家

ゆ云ふ故所へ伺ふる祈願と問ふ 難子の料理の餅を為ふ同夜子刻 政所にて答の祈願をして更

祈主祝詞あり同十三日 祝詞 難子より祈願を社僧祈者にお仕大宮大原ゆて祈号の祝詞と

恐物請ふ白鉄ゆ桃泥遠命カ大鳴祈願 右祝詞と信仰難負捕ゆ初夜先達の初夜見て拍

うち回日辰刻 國君より御名代より年刻 難負捕ゆ出る社家の面ゆ陸長刀の鞘とゆ

連と付ちと従者ゆ持色捕人と引連れ一統祈者ゆ拍ひ義向すに先持つゆ首途の祭

と一統一教酒と以て戴ふ命カ大鳴祈願 右祝詞と信仰難負捕ゆ初夜先達の初夜見て拍

先ゆく義向を祈ふ社僧ハ楊門まで送迎の式あり夫より難負人 ○行脚の社人と捕る人と云ふ 国君より御名代と警立

義向を伺ふ云ふ捕人と捕へ連ゆ引 年甲子五月 国君より御名代と警立

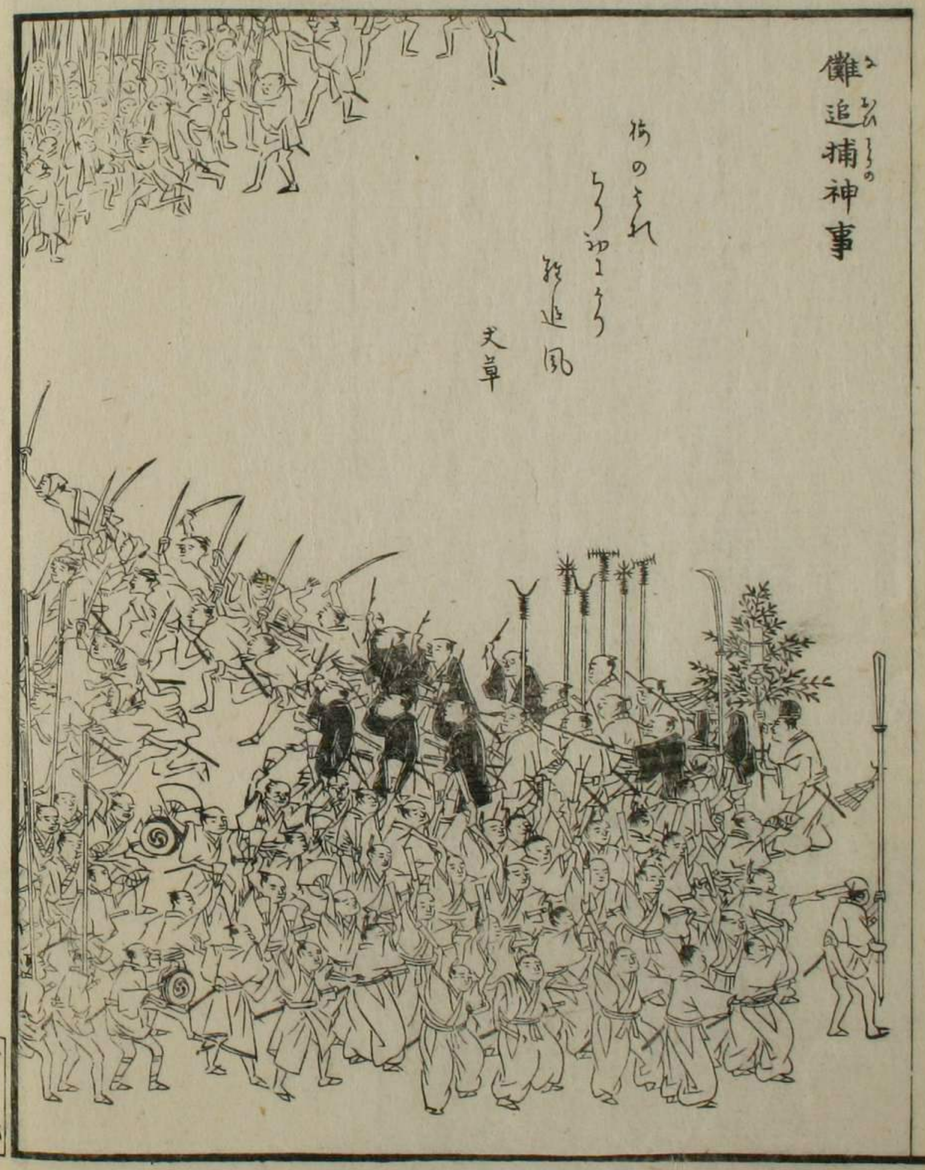
故所へ社祈ふ吉祥天女の像と借奉 故所高本の祈願ゆ祈ふ祈願と祈願

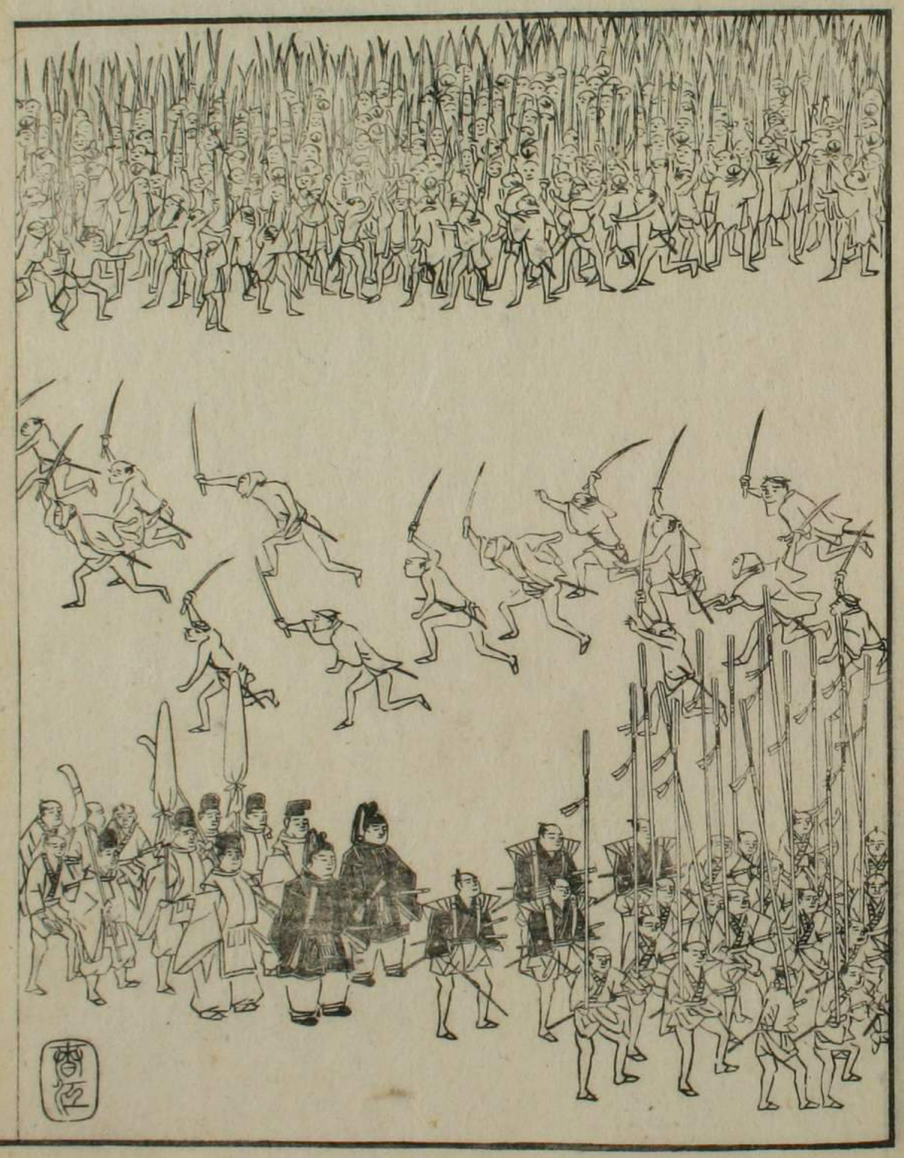
社僧ちゆハ国内神名帳と読上ふ初夜の長大宮の殿上ふ白紙祝詞と持白洞に入る宮福を夫ゆ

ふ清浄ふ後初夜ふ家ゆ家来ゆ故所ゆふる難負人ゆハ垢離

とふふ色為年のうち拝 故にゆ主祈御ふ主 故所へふ 吉祥天女の祈願にゆて又宮福を夫

儺追捕神事





[illegible]

一方度祈禱 同十四日午刻御供所川にて行ふ **政所御饌** 同日戌刻吉祥天女の像へ政所孟母の祈願のために供御調進難追敬の前にて宮[illegible]

[illegible]て供御と獻し天女の像を[illegible]す **大宮翁舞** 同十五日辰刻神官大宮へお仕し宮福を夫婦敬ふおりて翁と舞ふ侍て惠く延ぶ **奉射** 同十七日夜上刻政所へ神官を始め大宮長矢とぬむかの式あり又的の裏に鬼ありこの神使へ当番の神官を始め大宮長矢とぬむかの式あり又的の裏に鬼ありこの神秘あり

大宮大御饌調進 五月四日子刻内陣ふ大御饌十八膳と侍ふ御饌高盛粽餅ホと[illegible]

和名抄に形藤葛のゆくうる物和名萬加利と尺[illegible]厳島図會ホも粽餅の図とおなじ書社の候しかいまくう[illegible]

御鎮座戸神事 同六日午刻に行ふ神幸の式あり俗ホ梅酒蔵の神事[illegible]

天降ま[illegible]中島直の祖天背男命と契り凶暴と[illegible]

幣と持て馬ゆ[illegible]神代の神幸道と浄むしたる場所正推の為神事ハ改所へお仕神代のお御[illegible]

ホ神代しハ[illegible]

[illegible]

夏越祓 六月晦日神[illegible]

[illegible]

新嘗祭 九月十八日[illegible]

御煤拂 十二月廿五日神[illegible]

祈子祭 十月初子日社家一統大宮ホ拂ひ内陣ホ[illegible]

[illegible]

大宮神官ホ[illegible]

神主 野と部氏と正神官[illegible]蜂次賀氏と[illegible]

の初宮ハ天背男命の裔中島海部連の後と中世家義へ家系を失ひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

年頭大御饌 同廿九日子刻一統神官ホ拂ひ神官一人内陣の大御饌と侍ふ見と元日の御饌と

[illegible]

社僧威德院 真言宗長中村万德寺末 [illegible]長五年 神君御武運御長久の御願と[illegible]

大津[illegible]夫[illegible]

[illegible]

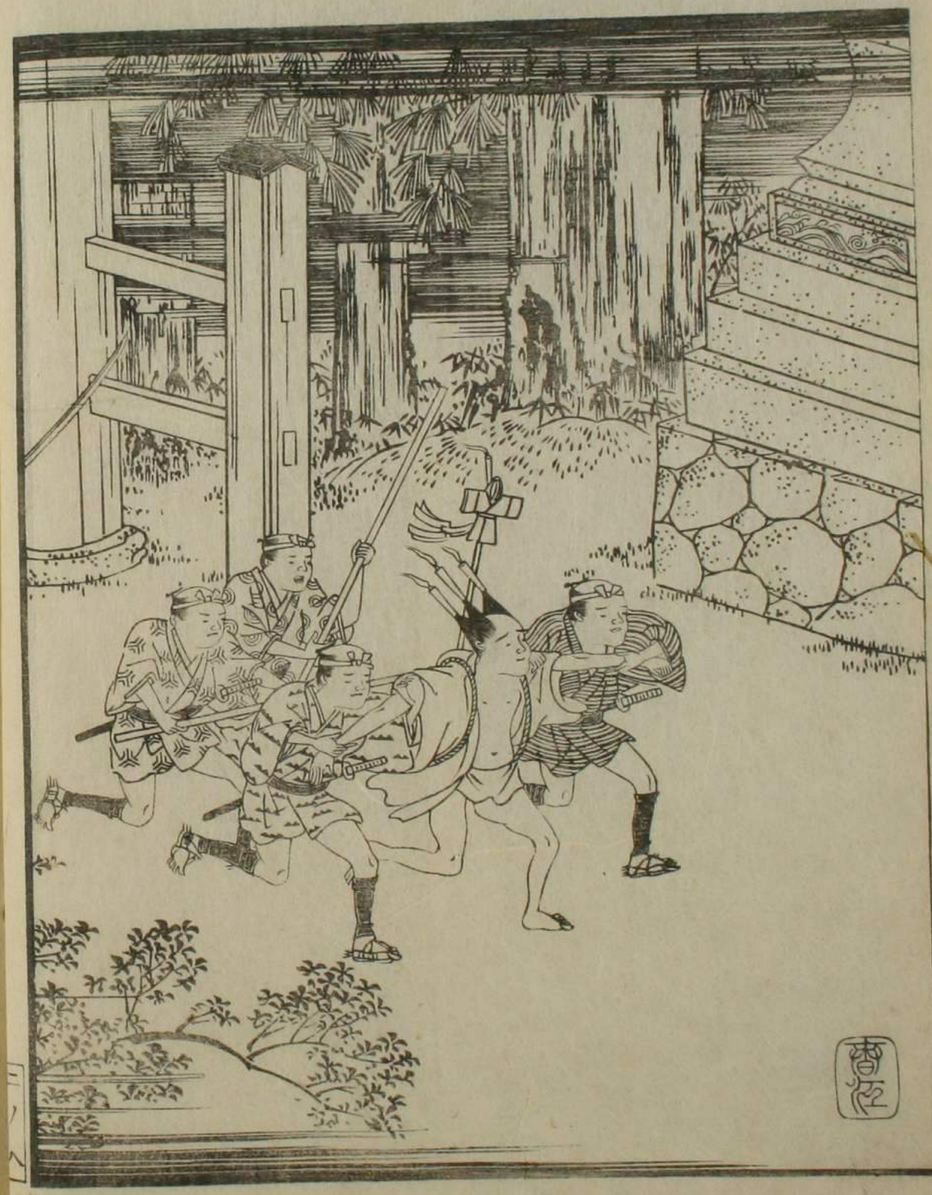
大日堂 儀退堂[illegible]ひて真言宗[illegible]村

[illegible]

宗形神社 國府宮の別宮ゆて角王明神と申次系神ハ大巳貴命の室ホ

[illegible]延喜神名式ホ中島郡宗形神社[illegible]本國帳ホ従二位宗

夜儺追の神事



形天神と志保ゐり新撰姓氏録に宗形君大國主命六世孫吾田片隅命之後也とあるめり彼氏人が祖神と祀りし所社号と云

大御靈神社　曰く別宮にて御玉社と申次延喜神名式ふ中島郡大御靈神社本國帳ふ從一位大御靈名神とあり爲政ハ大國御靈神と八重事代主命とを合せ祭る

舊事紀曰大歳神娶伊奴姫生兒大國御魂神
文德實録曰仁壽三年丁卯以尾張國大御靈神列於官社

國府宮

時雨橋殺
祥雲五色擁雕甍入廟齋心已覺清戸祝有人傳祭典士風從古進儺名歳深宮外長杉合晝靜階前衆鳥鳴庠序遺蹤何處是遥思學士賦詩情

岡田新川

信景

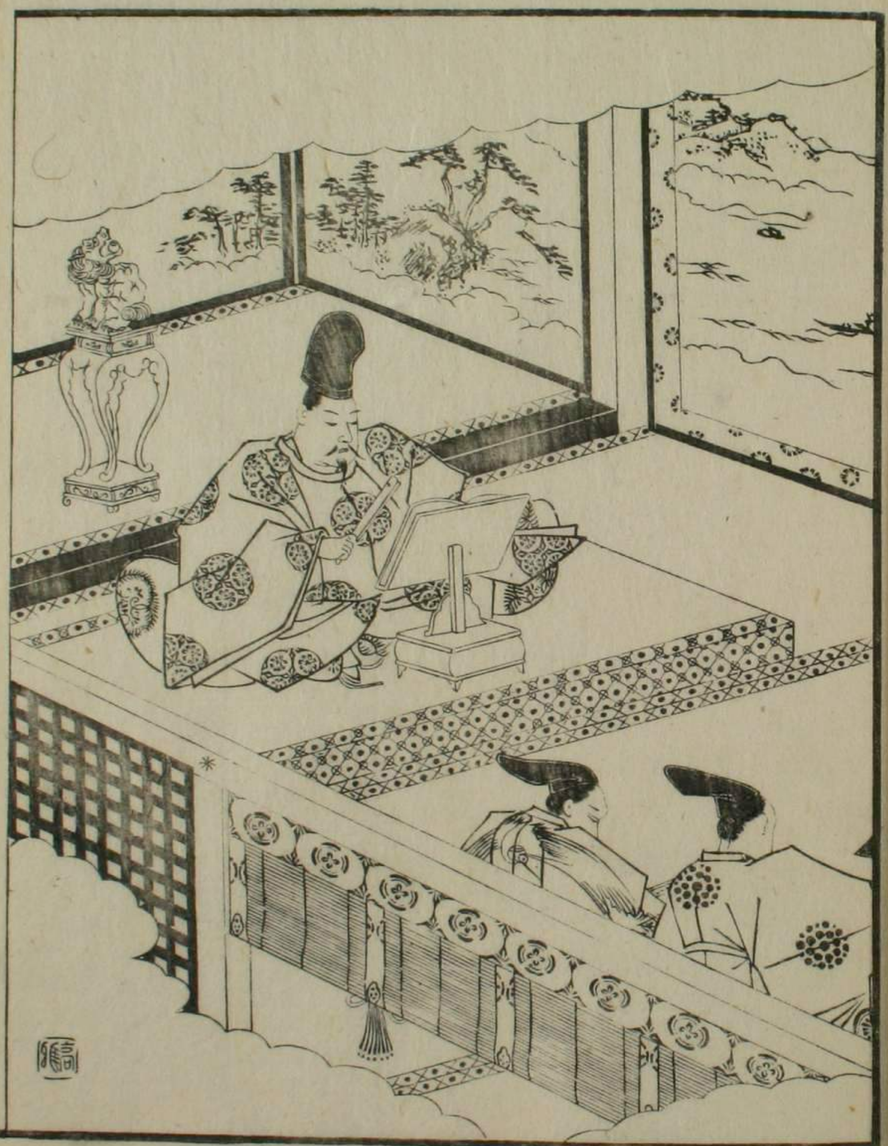
夏草　清水　露川

國衙廳館跡　松下村ふあり今国衙谷と云し

往古郡縣治政の御世ふハ諸國ともに国府の館舍ありて守助掾目史生等の友人京都よりくだりて官舍ふ居て國中の政務と行ひしに日本書紀の　天武天皇元年の条に尾張國司守小子部連鉏鉤二万の軍兵と率て　天皇の御軍ふ加りたまひしとあるは尾張の守ハ古書ふ見えたる甚古の守なり其後大宝三年七月甲午多治比真人水守為尾張守と續日本紀ふ志るしたまひつぎ大中臣朝臣清麿滋野朝臣貞主等とたびたび四五年ごとの任限ふて交替せし数百人の姓名ハ諸書ふ見えたり中ふも大江匡衡朝臣任國の時温厚の政と行ひたまひて其のち頼朝公平氏と討て世と治められしほ文治の末諸国ふ武家の守護地頭と置しより國司の威権衰へ次第ふ空官のみなりて政事と云ふことハ官廳ふ居住もせずして彼今も廢し古跡とハなりぬ

學校跡　国村に

國廳の跡と云地殊ふ廣く学校の地も甚うちあるべけれど今其地定うるに法尻ふ或問往年国志のうちに吹の音子中島郡松下村国衙島と改て尾張学校の跡なるべしと云ふ何をもつて此を然とかとしに予曰国衙島又ハ国衙谷なるも又時ハ昔日国司の廳なる事明らけし廳の地古往学校なるべしハ　陽成紀ふ紀伊國司吉八月二十六日丙時風雨晦瞑電激發震於國府廳中及學校并倉屋破と云ふとあり



國衙學校ノ大江匡衡講書の圖

匡衡朝臣ハ和漢の大才ニして文ハ朝野群載本朝文粹 詩ハ新撰朗詠集和らぬハ後拾遺集續古今集新續古今集中古哥仙新百人一首等ハ凡そ自撰する所の書ハ江吏部集 大江匡衡家集あり

てんれば昔國府に学校を立しは廳の地なる事勿論なりとかつて予此説をなせり嗚呼学校
のおこりは仁明紀に其撰見えて其後は一人の博士数ふに處て教しめ諸生貢挙の努とあがし
やうて又毎州博士を立すかも史かは見え侍らねどまもとまれ　主上も臣下も佛をのみ尊みて人倫
を他のやうにせしより学校も絶より况や保元以後は乱世にてなりしかば其跡さへ知らず次第
とし人もなし
とむべきか
江吏部集に見えたり　大江匡衡朝臣の尾張守たりし時学館院を営らしよし
栗原信充が柳葊随筆に拷古國毎に学校ありしと七経孟子考
文等にも見ゆる國学の事は今も見るねばいふもさらなり讃岐州廟
て菅公の建まふ所尾州の州廟は大江匡衡が建立せる所とすむ是られ国守の私議にして公の
定とは申しがたし況も其跡だにさだかならず今さら足利の学校のごと今に其名の傳はると云傳せり

冬日於州廟賦詩付小序　大江匡衡

夫詩者群德之祖萬福之宗也動天地感鬼神莫
先於詩為是以率一両門生於學校院邀聊命筆
硯於戯侍讀未必遠吏我再任蘆葦早濕之地分
憂未必輸林我初展風月宴遊之筵昔西曹始祖
菅京兆行縣邑以作風土記今東曹末儒江侍郎
思郷貢以興學校院其詞曰

明時侍讀一愚儒再得尾州行使符長保春風初促
駕寛弘冬雪更迷途割雖唯愧蓑雲剣折蜂只愁合
浦珠洛下親朋莫抛我欲壎月桃興花祖

西曹東曹は菅家江家とふ是同祖なる所なり菅京兆は左京亮清公朝臣なり尾張介たりし
時風土記を作られしよし以り壒嚢抄に菅清公の尾州記とあるは風土記のことなるか
江侍郎は匡衡自身のことにて学校院と興復せられて此朝臣の創建のよしなれども
長保寛弘は匡衡尾張守初任再任の年号なり此外同集に尚その作あまた見えたり今二三を公挙

付小序

早夏諸客賀予再兼翰林不堪情感聊賦一絶

予今年正月拜尾州刺史三月兼翰林主人蓋聖
上好文賢相重士之所致也於是賀州源刺史青
宮菅學士狂華軒與門生四五輩来賀恩之深也
聊以孟酌答謝厚意昔山陰曲水之會右軍自作
序自書今洛陽翰林之亭主人亦自記事自詠其
詞曰

久陪蘭省東方朔再入翰林白樂天不耻衰鮮為少
史只歡勸酬継前賢

寛弘七年三月卅日還丹州刺史帰舊國尾州
有感以詩題廳壁

昨任邉州猶鵜退今還近地始鷹揚投竿呂望衡新
詔衣錦買臣到故郷侍讀何居東海外翰林宜在子
城傍州民莫怪忩々去我是毎朝事帝王

左丞相尊閤賀帯三官恩賜詩曰侍讀皇恩歳
歳新尾州再作撫民人桓榮昔者猶應劣李部
翰林任人頻匡衡跪讀瓊篇不知手之舞足之
蹈情感難抑敢抽鄙懐本韻

三官如舊賞心新更賜御衣（拜尾州赴任之日天子賜御衣　兼翰林事之日東閤賜鹿）異衆人賢相人投金玉
韻老儒不耐荷恩頻
白

修理若御子社

同村にありて今墨染天神と申し次本國帳に
従三位修理若御子天神とある古社なり

補陀山観音寺

同村にあり臨済宗京都妙心寺末当社参詣池の観音たに入て本尊を拝す阿弥
陀の像と安置せり此像の内に元久某の年の事を記せりとぞ昔は山門の赤ちなりて堂塔も立並び
しとや吉野の先主の御所なりや清拙大鑑禅師中興の祖と云ふ寺を建の事ありし若行

けう多敷のなりして般若梵筐の印うる観自在の金像あり禅師の牌なも舊くおりけり
弘暦應二年四月十七日寂と誌しけるとうん孤村脩竹静かに疎磬声さびしく苔巷年ふるち
ふるいとわれうりけり
五五〜五〇〜五〇めー

稲葉驛　美濃路　東海道関田駅より北かつれて上京する官道うり或い上海道もう の宿驛して東の方清洲
より西の〇方萩原宿への馬継うり町屋長く連り公私の旅客
常小絶る事なし

稲葉　萩原　身延紀行里

伊奈波名神社　稲葉村かつり今土所権現と称す本国帳小従一位伊奈波名神し
見えり美濃国厚見郡岐阜にまた伊奈波大神と同じ清社うり
金名神社　同村にあり本国帳に従一位金名神と見えり美濃国岐阜の稲葉山を
金華山とひて金神のおりまして同じく此村名とうり禅源寺の山号と
ともに同じきなり
わるまーうるー

金華山禅源寺　同村かつり臨済宗京都妙心寺末永和一年九月大清浄師創建し
永正九年勝岩和尚再興す当宗氏ともうしての大刹かて古ちえ
寛永年中将軍家清上洛ありし時尚ちを清敬ありうえり和尚は紀寺の本像たち
天照大神春日明神と安置次又本尊額越つ額も朝鮮人滄浪筆ありう
塔頭　丟沙軒　寺室　行基作の地蔵菩薩　牧溪筆の涅槃像其外唐画の
古幅多〜　将軍家ち拝領の清茶碗ホ其外多〜

齋所権介成清　同村の人其居地定ありうし成清の子冠者清道漁猟を好て国景の乃
理とも鱗へ〜ありしか或年東大寺の大仏供去のありけるに父母と共ニ

詣でるが俄に改心ありて出家せんと願ひて有ふに清道ハ父母ゆるさず
心やゆるぎりしかひとふ所々をさまり当初に登り東大寺の上人に謁して其ありうをなされが
上人うけがひ烏帽子をとりて此ありて有ー清道ハ初行ひ当ー清ち世山の彩別所ホ居ー念
佛してありけるふ父母ゆるねりきて天世とふ所（時）野面ーうりうり初ハ清道入ハ
権者うりけるや晩年にかわて死期ち知りうるー紀従生をこげうーうー鴨長明の発
心集及び三國傳記ホ見えうり此権ホ成清のなさに富実の仁ありー其為ありて かる発
心ありうれど今其つえをうーるひうり

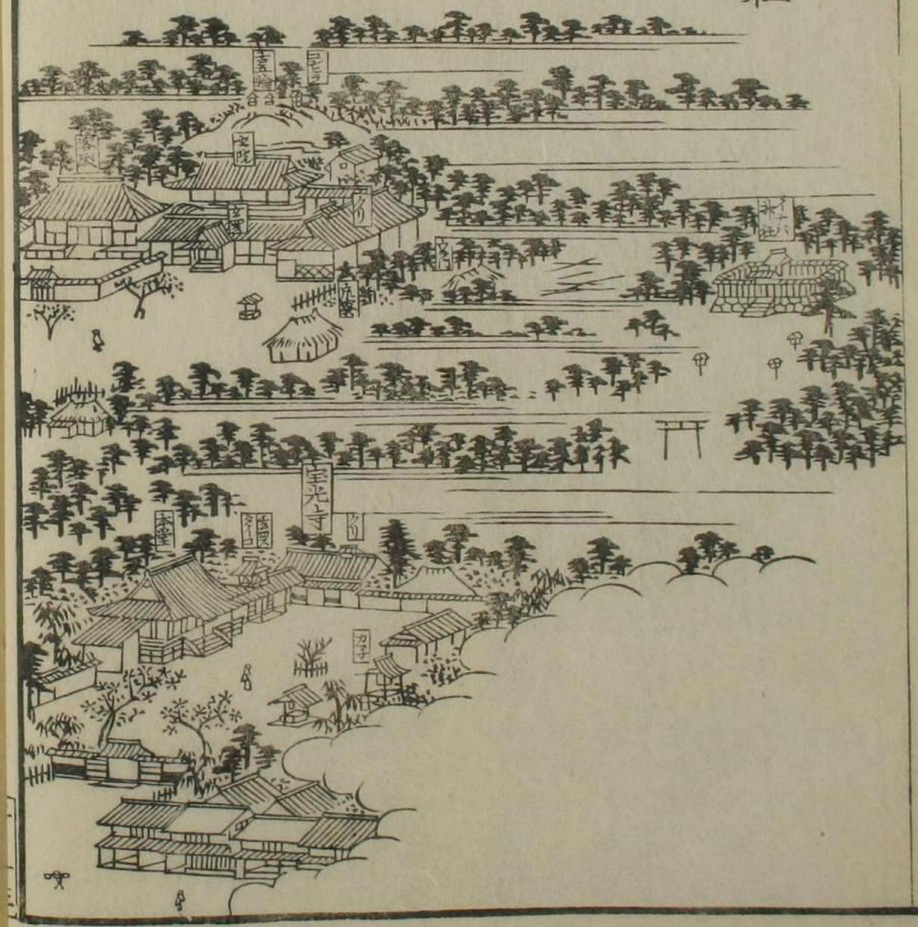
久多神社　稲葉村のうち久多と云地ホ有り今廃して微しり延喜神名式ホ
天背男命齋居跡　同所ホ有り命ハ中島郡久多神社との世本国帳ホ従一位久多名神（一本ホ久田と見えり）
氏の先祖うり氏ホ居ありに石島とふ地ありて農人地中より古
瓦と頃初沢千年以往の大廈のあとうるーと雖人の居地ち今ホ有るー有ー
久田氏宅跡　同村ホ有りて久田弥四郎清嗣の城跡とふ虎ホ尾州国府宮の神主中島連ハ天
背男命の商うり暦應三年八月久田宰相房崇政死して其子幸穂丸神主ーうる
久田弥四郎　元政　代〜相続もうー　其廳宣ハ今ホ無寺に所有せり

茜部天神社　同村ホ有り今廃して此ホ有ー本国帳に従三位茜部天神と云ー古社なる
村のうちにあるべきよふ地ありて殊ホ度けるハ近頃小祠をいーうー　茜部　阿加と云る舊郷も失れど茜
部天神　言木村より一向宗東派京都本山直末寺善提院と号ー美濃国石津郡
大光山專正寺　大田村にありて井之口の頃と称同寺名を冠派教務所の天台宗ありしー延徳
年中今の地ちうる其後既往西通（俗八幡宮野田五郎正妻の男子如上人ニ過ぎ）直芳と称し六字名号を海
寺して浄宗ありし時今のちに移る天正の中伝七六家れさと金銭の為軍功ありて十字名号厳状矢二郎をたり
長杜天神社　西所蛍村ホ有り本国帳に従三位長杜天神と云る古社うり
里人ハ多ありうりの假名を願例して今金森明神と唱ぶり

禪源寺

伊奈波神社

金神社



清虎ニ云享保三年戊戌十一月琉使東行図中の時尾西金花山に仮詩を作りて越来王子に贈る

不謂我山簇錦鞍風光此日与君看移来霜菊色充把聲出仙花露半乾

禪源寺清光座元

金花山上駐吟鞍霜菊水仙座外看風雅高僧能愛客筆頭珠玉色無乾

中山高和聲拜稿

中嶋村

長隆寺
延命寺

尾張國中島郡の郷と尺くらの古き里なり

甲斐子殺集
古寺の
佛はかさり
色あせて
里のうぶな子
かしこまも
せず
甲斐子

木全又左衛門宅址

木全村及び稲葉村かゝり木全又左衛門忠隆其祖と善鏡しひて世に武勇に秀でもりしゞ信長公の時美濃の堺より一揆発りて尾張の地と掠うむし郷士二三百人て駈合して抱しかと木全流とめ〳〵不意をうちて一揆と多く討取り世の良業にわらしし武話碑玉とふ書に見てもり是名古屋の長臣滝川家の祖なり

無量山長隆寺

中嶋村かゝりて真宗一宮村地蔵寺末高さ弐尺古雅にして古佛古彫なれども尤も芦華と称する阿弥陀の大像すなれて古色あり夾侍と観音勢至日光菩薩月光菩薩なるべし印相日月の開ける形ちなれば観音勢至なるべし多く数亡して此日光月光のみ残りしあるべし寺宝茶所画像は巨勢金岡の筆五大尊不動画像は智澄大師の筆不動画像は傳教大師の筆甚外唐像かきるあり多の筆

光堂橋

同村かゝりむし佛閣のみ多きの喜名坊五ヶ長隆寺と称ずの国分寺の支院多くしかも名高き厳のみ堂もかゝりしと又村内小護摩塚と称する所と称して塚の跡なるべし古寺の多き地なり沙石集に云尾張国中島郡に道世の上人寺と建立して僧五六人止住し必清の衣鉢うんど常に所に古木の大なると造営のしるに きりけるに寺なりき在家人に樹神なりて十けるは我等は此本とこと家となりて すむに憐うく僧のなるべきあるべきまゝ事なり制止まるべきなるべし僧ふるを付えてもたらもせり余所の者をばかくせむべきやとやわるとなれば我等は僧の繁盛衣の風ふもあり陀羅尼の声ともきゝてなれば苦患もたもるまもなきて結ばりて切断してげり只かくしてなれば僧ともきゝ

中島左衛門尉宣長

同村の人なり砂奥ちの岡山城宗和尚の父中島義人は此宣長の高孫なるべし

東鑑曰延應元年九月廿一日尾張國住人中島左衛門尉宣長者兼久逆乱之時為官

軍之由有沙汰被収公所領然而當時侯御所中頻依愁申之於尾藤田畠者可付渡之旨今日被仰付西郡中務丞云云

串作の里 起由乃の村うり和名抄に中島郡石作以之豆久利とあるとゝの事と次いまゝ定うる内御作河室段錢とあるハこの事うり河室と又地名支邑ハあり 康正二年造内裡段錢并国役引付に八百五十文進士小二郎殿尾張國中島郡串作村ハありて津土宗 元保の曼陀羅寺末河室ハ舊き地名なり源三位頼政ゞ高倉宮ハ啓しつる諸国源氏揃のうちうゝ尾張源氏河室判官代とあるハこゝの人あり

河室山觀音寺 串作村ハありて津土宗 元保の曼陀羅寺末河室ハ舊き地名なり源三位頼政ゞ高倉宮ハ啓しつる諸国源氏揃のうちうゝ尾張源氏河室判官代とあるハこゝの人あり

萩原驛 美濃街道の宿駅東の方稲葉宿より西の方起宿への馬継あり町のうち長く農商軒をつらねて賑ひき里なり

玉露叢 文永十一年甲戌 将軍家清上洛七月六日尾張国萩原宿をとゝまりたまふとて

わかふあるいて所とゝまりけハ萩ふかれ秋のくゝゆの枝のゆゝしさ

身延紀行 壮麗 祈り地の萩原寺 元政法師

萩原川 一名古川とゝひ萩原宿の西を流れ街道ハ板橋を架りし川むゝの木曽川鵜沼川の舊流うり保世川の瀬かうりて起川と本流とゝたれどむゝの流の跡かゝ沙汰うるうりうりうり長流の

大川うれい所くに決して流派數道沙汰うり

續日本紀曰神護景雲三年九月壬申尾張國言此國與美濃國堺有鵜沼川今年大水其流改道毎日侵損葉栗中島海部三郡百姓田宅又國府并國分二寺俱居下流若経年歳必致漂損望請遣解工使使開堀復其舊道許之

三代實録曰貞觀七年十二月廿七日甲戌尾張國言昔廣野河流向美濃國當于斯時百姓無害而頃年河口擁塞愈落此國毎遭雨水動被巨害望請堀開河口令趣舊流太政官處分依請其後此川普請ゆゑ美濃ゆゑ各勢郡の人と中島郡の人と爭論出來つひゆゑ死傷ゆゑ及び数十人死傷ゆゑ事三代実録ゆゑ見てゆゑ甚大

吉藤里 吉茂村を尾張風土記殘缺ゆゑ吉藤山出脩竹等杉栢松等鹿兎多頂上有池号吉藤池昔在神號三段之荒玉築社於此池中毎秋供賦以人當時絶亦社之在所滅焉と見えり今ハ鹿兎おゝどの住ゞる山もうゝうりて杉林うゝの廣くむゝの山ハ面影ハ沙汰うり又村の南北方に山中うゝ海ゞる地の沙汰うるも風土記の説ゆゑ合りけ三こゝの荒玉の社の所うゝ池も今にありて玉江とゝゞり

玉江御厨舊地 吉茂村にあり神風抄ゆゑ尾張國玉江御厨とあり今神江とかきてうゝ文和三年四月廿三日熱田御神領目録ゆゑ中島郡玉

本社
天神
神の
宮

鞆江神社
神工手

江莊田畠十四町四段三十歩云云

鞆江神社 同村ニ有 延喜神名式ニ中島郡鞆江神社本國帳ニ從一位鞆江名神と唱ヘ今神江明神と称す 名勝志ニ往昔神功皇后三韓退治の後諸国ニ放生池を置ふ当所の放生池と鞆江と号せり 社僧 青蓮山神江寺と唱ひて昔日宮三関村心眼寺末寺也 徳に文明十八年の建立にて心眼寺六世久翁和尚開基 本尊釈迦如来 泰澄作

三代実録云 貞観七年十月廿八日丙子授二尾張國正六位上鞆江神從五位下

名産生姜 阿古井村より出る形大きく味佳 所ニ有 波一村路々作りて下ニ小田井の市へ出る又此根ニ白玉のごとき物あり 是を姜ニて珍味なり 雖ども姜ニて珍ニ賞ス 又同郡二子村より モヤシとて ホ姜の芽 多く出せり 共ニ名あり

聖徳寺舊地 富田村ニあり 名古屋七間町の聖徳寺此地ニうつり今名今も富田の聖徳寺と唱ひ 菱ヶ八年 聖徳寺易地の後 信長公其旧地ニ寺を建ての支院と成 信長ニ美濃の守護 篠葉山城守と 入道三と云 寺ニて 今合わ 半次下ニ尽くす

信長記ニ曰 信長卿の行跡 平ま中 芳ヶ諫書を用ひ 頃あり 近国にかくれなきうつけ

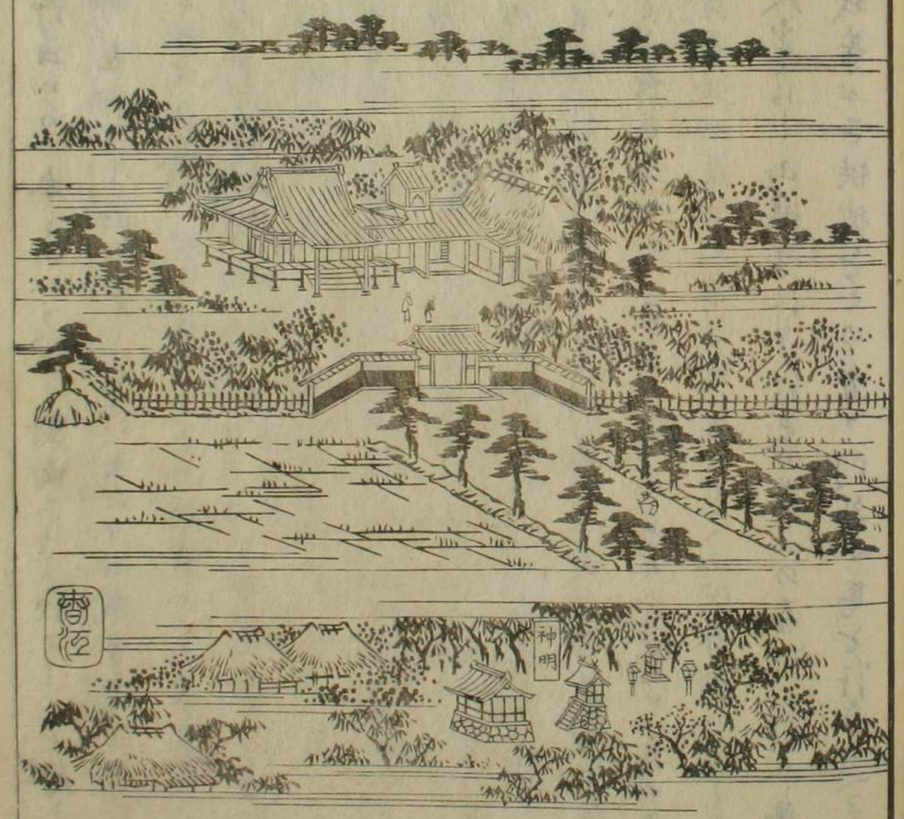
篠葉山城守の家のまご 山城守の前ニて信長卿大鳴呼の人と

いと連れ下ひるに式時 道三 祝儀 信長公嫁娶の祝後の見参 善悪

をとろへ見むとあり 四月下旬富田の寺内聖徳寺まで出られ間

浄慶寺

日のうちに
いろけ咲く
ちりろ月
英齋



上総介殿も御出ありて本意たるべし対面あるべきよし越されなるべし依長卿左右なく約諾を通じて御出ある山城守悦び彼町末の民屋に忍び居て上総介殿の糸毛の御輿を見奉其日の出立髪の結やうさげ物（胴卵の類の腰提の物）明衣（今風浴衣）の体常よりは遥に越て異艶なり御供の人々徒なる者千五百人御先にとらせ三間半柄の朱鑓五百本弓鉄炮五百挺為持寄宿の寺へ御着あつて爰に於て有べき式のおもかるひ（髪をゆはかずに結ぶを云歟）をなければ皆人有まじき業のよしにぞ申あるかくて御糸舎事終りぬれば又頓て可有御出とて御立ある道三も萩原の渡りまで見送りけるが長き袴をたくし立て帰らるるを見て奥さま新参ゆりける猪子兵助道三の前に近寄て上総介殿は何と云ふと嗚呼の人かなと山城守に申けるは道三の答へ如ふかれば無念なる事ぞよ我等が子供彼をこの者が門外に馬とはるべき事

業のうちうとうとしくして其めし人の目さめざるを待しる物いかなりやう

起驛　美濃路の宿駅東の方萩原宿より京の方安濃郡俣宿の馬継なり南の方富田村より町屋をくうちつづき旅店茶屋ホ

駅　尾張風土記殘缺に曰尾越山出茨苓山椒拮授等有名桂樹取之工家用笹槽之類云云今ハ郡たびひら且尾越山庭訓往来に尾張八丈とある名産なり苗村より織出し朝貢ホもし又清ホもあるなり

孫なり村名を織屋起なりもむしの名称の里の名なり

謂北吟集

駅馬　駿々陟長野吾人會集譁茅舎記得従来小里　平巖仙桂

名鼻論句中称商也

秋夢ぬしいくとせ志なかの中岳のわらしはホ四ホもてかなも　田中道麿

玄蕃十四年甲申三月朝鮮人来聘の序ホ起歌止者の日当庚戌谷陰洲二百韻の詩を作て彼地の学士南秋月ホ贈りなる秋月曰二百韻の詩古これ富書博学に非ずハ誰ぞ能ハ作ん怠卒していまだ能窺学ひ得ざるなり況や和するをや短篇とかりてこれホ答へんと彼二百韻全篇を閲し前後三ホ改めて二十字を抄し前ホ主伯之尾人舎をもむ著て下位の名且吟し且唱し即手を援て陰洲ホ示陰洲又秋月が韻と席上ホ和も秋月寄与辛文と比て驚嘆せりと河東雅契に詳ようりて爰に詩を略次

起川　村の西より本宮川と又水流本宮の奈良井坂の宮居峠又御嶽の麓より出て伊勢に流れて川中辺に水勢はげしく わるくも養蚕のめ一永流す 将軍家御上洛の節く朝鮮人来聘の時は舟橋とりて大綱及び大深りてつなぎ其上に板を敷して陸地とあゆむ 越中国神通川の永橋いきもつ伏今の世に名をなす越中国神通川の永橋ハいきもつハ高さ五丈一の壮観くいとべー佳境遊覧曰 大樹御上洛之時懸船於此川也朝鮮人来朝又船有此舟二百五十艘為舟橋舟与舟間三尺餘用大銭偉繋合布板於其上云云

嚶鳴館詩集

暮春渡于越水　鴻雁悲数声　正觸離鄉意　既傷遊子情
行々且顧望　雨晴尾州城　細井平洲

張衣　さてその川にかやくりて　陸の月とゑん　本居宣長

藤川の高座にいとつの橋あり長い其後とも一説村の畑に松客の渡とつ次尾越の口より約横の後紅すり馬豆人あのつ画中に桂人友之一説今者ハ水上の月に清真わ三舟の才待ハ佳者と器ゑ俗あり糸千里に海むく次わ三舟の才待ハ佳者と器ゑ俗あり糸

ゆ川の渡場る西巻ハ孝夜燈と建其銘に曰　石燈銘

代士に　山も面の月　曉臺

中山之道　三野之陸　伏水龍公美譔併書
渺乎如練　不辨渚涯　有水名渕　自彼岨溪
它山之石　作灯一基　絡繹行客　舟楫以濟
呂便徐往　爛兮耿兮　載削載磨　置諸厥湄
哿哉惠光　長辺滅期　俾人弗迷　明和庚寅夏日

萬松山頓聽寺　小伝中島村ハ行一向宗本願寺の末寺 義重の自筆ハ名書の印わり 義重の画ハ 好人の画幅あり 寺伝ハ小野小町の姿 ハ古雅 又曰ト

義重の画ハ　ふまてハゆくむ　ハ孫連伝 国君ハ祖 苗字草刀と先る 又拵現社ハ宮永元子年の勧請 今ハ高家 現社ハ

わやまつて　彼者ハ夫の大江匡衡朝臣につさて面ハ

面郡の府館ハ行くれば古くより其姿と画きつ

権現社　同村ハ里民吉田某が麦地のうちに清光 吉田地現 吉田氏祖先ハ右ハ介貞親 永福年中三河国吉田より面ハ信長公ハ伝 其子長明 神君ハ

仕て武功わり後あり面村ハ鶯居 延喜神名式ハ中島郡堤治神社本國帳ハ従三

堤治神社　同村のうちハ伝ハにあり 今ハ神明社と

位堤治天神と　集説ハ続日本紀の景雲三年尾張國海部中島二

郡大水のうちのせる其頃堤防鎮護のうちハ神のうちハ小

伝の堤の上ハ今ハ神明社 則其舊社 麦長年中

田代内記と人其旧地ハ神明宮と勧請 旧号と

神明社　奥村の色むり伊勢の御厨の地

木曽川晋請陣屋跡　西五城村ハ慶長十九年二月伊奈備前守木曽川通普請の奉行 防起村と小伝村とのうちに陣屋と営 其事行

起川

山晴春渡白鷗
飛緑水溶〻映
錦衣時望紫烟
紫鳳閣更歡尾
越早逢帰

中山蔡邦錦

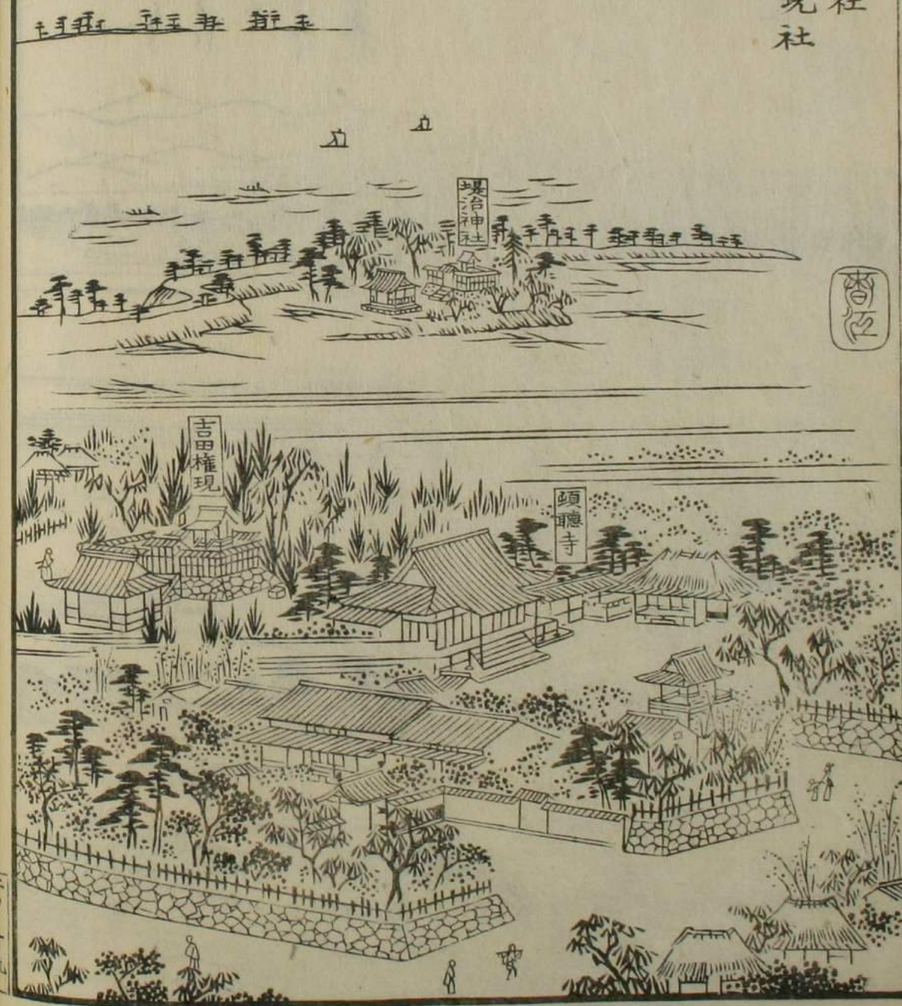
楊柳萩〻
みどり〻に
起の川ふ
燒風〻
山田清盈

清や〻と
まゐる
え
〻
〻
み

李曠

堤治神社
吉田權現
頓聽寺

文られハ
招に志たく
ちく塚の
夢も涼しき
表つかぜ
吉田高遠



のち彼陣屋となりて一向宗東派信行寺と
造立せり南ちハ名方谷聖徳寺の末寺なり

大塚山灌頂院性海寺

大塚村にあり真言宗毒本寺京都仁和寺の禪定院
兼帯の院家にて七種の色衣着服まゝ綱代輿朱傘
寺法免許ありて南ハ
一宗の寺勢なり

南ちハ弘仁年中弘法大師熱田大神宮へ参
詣の折うち此地を過らせけるハ威容嚴然たる老翁一人出来
り大師ハ逢ひて告けるハ尊師ハ勝地を索り真言祕密の
道場を營構して衆生を濟度せんの志あるものと我ら幼年
よりたのもしく此地に勝れたる所なしとて精舍を營み給ひ
ぬ行て行方知れず去るとぬかして大師老翁のとなへ
給ひ南ちを創建し自ら愛染明王の像を彫て金堂に安
置し又鍮像の大聖歓喜天を鋳造し大きなる塚を築きて
其像を埋み國家鎮護の表とせり其塚今猶境内ハ
村名を大塚と云ふ此塚より起りて其後四百餘年の星
霜を経て堂宇衰廃ハ及びしを建長年中南郡の領主長

性海寺

過性海精舍　成瀬正太

祇樹蒼〻梵
閣深常無車
轍映門侵偶
攀蓮社緇狂
態獨使遠公
同醉吟池潔
綠蘋風疊影
徑回脩竹晝
成陰從君能
罄交歡去定
裡供園不涼
心

谷部民部大輔源政（後祝髮唱叶と云ふ）奥復の志願を起し京都東岩倉の良敏上人と力を合せ金堂灌頂堂護ㇾ堂鐘楼山門等を営建次依て良敏と中興の開山と仰ぐ

良敏は幼時より本州の浄心濃州の照寂に随つて天台を学び紀勝寺の大圓に従て真言教を受け東大寺に住き圓照の室を設て戒を受け律を学び苦行及び峰須賀を奉寺を開創して宗義を演ぶ本州に密教を唱ふるは良敏より始まる本朝高僧傳に出る

人の時　後宇多帝の勅を蒙り弘安三年二月廿八日僧泉五十餘口を率て蒙古より龍来し異賊降伏の祕法を修せむ

すべて代々の征伐祈願多く他の宗僧等皆悉に来地すれども帝の中にも八事山の諦忍律師或は其師につきて来れるに征伐作詩を作りしかば忍数十首を作りしいまだ年十六の弱冠なれども名匂類ひなかりしかば征伐褒賞し且戒めて汝年若く学才なり詩作の必要小業を止めて学問を勉むべし忍覚尤と感じて堂中に安置の弘法大師の像を指ざして我彼がめくらと思へり忍覚は生を厭ふ世と思へり義しかるに後に忍覚は活板を刻して衆生を教へ家の板数万億字あるも諦

本堂　義久三年浄蓮上人が伝法作

の善光寺の本尊を摸刻して安置次又尊勝陀羅尼をもこめ阿弥陀紀を勢至一光三躰の像と龕塔の内に納め巨勢金岡の筆之塔の脇立の四天王の像は運慶の作別壇の尊勝塔と号次塔背に二十五菩薩を画けり地蔵は安阿弥作又持仏堂の阿弥陀本像は慈覚大師の作

客殿　道晃法親王真筆の性海寺三字の

扁額を護摩堂　宝蔵庫裡書院　廻廊　唐門等其外の諸宇厳然たり

愛染塔　境内の二重の高塔なり弘法大師作の愛染明王の大像を安置す

なり明王怒の面容儀形威霊なり　感應勝まれが世人

建長年中の建立なり其内清涼殿の男女群立なり又塔の東北に御堂あり

国府の阿弥陀堂なり　聖天塚　本堂の西なる塚山なり弘法大師営築して歓喜天の像を埋め

なり　鎮守八剣社　大師奥田と伝作なり

なり　寺領　長谷部源政が寄附せり　寺宝　綸旨一通

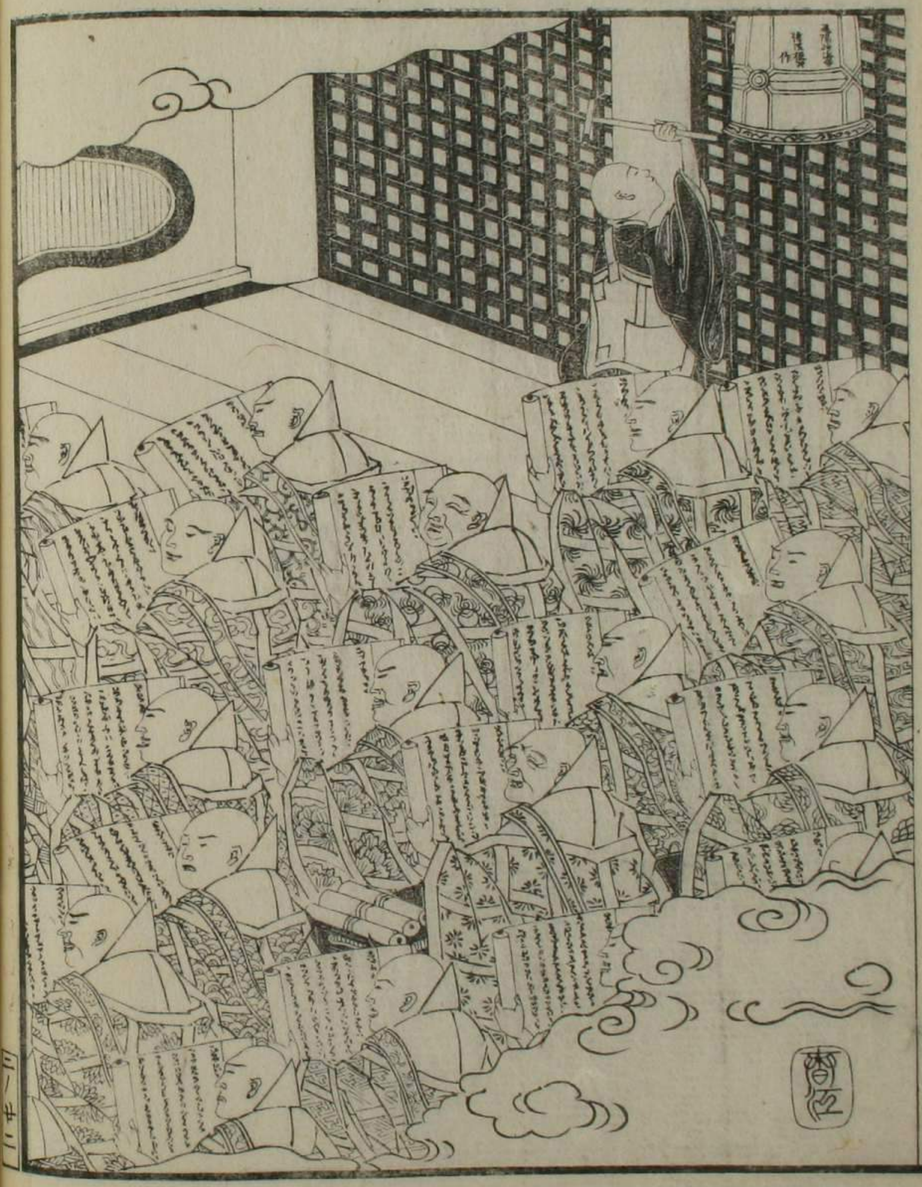
紅葉を植て秋の頃は林泉なり　断絶なり今は若干と頒す

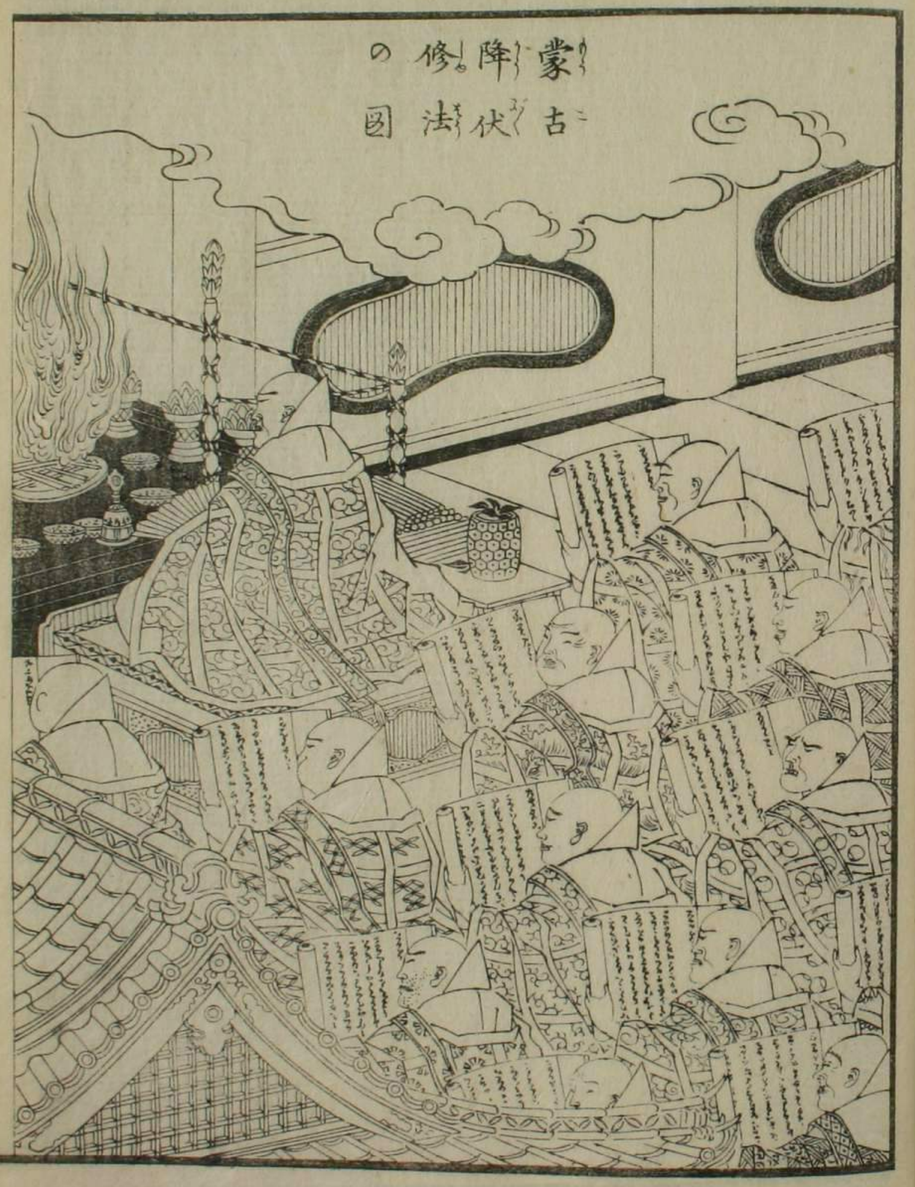
多賀の社に詣て願を壮厳なり拝殿

後醍醐天皇元弘元年七月十八日　同一通　後光厳帝文和二年九月九日　院宣二通　共に年号不詳二月四日十月廿五日　尊氏公祈禱状　建武三年正月六日　同制札　建武三年九月十一日　直義公制札　建武三年六月七日　北条時頼証状　弘長二年三月十日　異賊降伏御祈禱証状　蒙古の異賊降伏の文書なり弘安三年二月廿八日なり尼も墻検校が蠅拂小七尾張國中島郡性海寺文書なり

「なり」と出せり

熱田大官司寄進状　弘安七年十一月九日　尼尊如寄進状二通　應長二年三月廿日　建武四年七月　沙弥唱吽留記　正嘉二年六月三日　尼圓日寄進状　嘉暦三年九月五日　織田敏定證状　文明十八年六月四日　長谷部系圖　享禄三年八月十八日　織田大和守達勝證状




蒙古降伏修法の図

天文七年十月九日 豊臣吉房 證状 文禄四年六月 其外建武三年二月の宮内大輔源政
状及び[illegible]て二十餘通あり又弘法大師自画の像とゝゝめ不動
明王愛染明王五字塔の三幅も共に大師の筆なり其俤芦に鳥
の二幅對 雪舟筆 竜虎二幅對 相阿弥筆 山水人物等の屏風 雲谷筆 同 永徳筆 花
篭 文明十四年とゝゝ 太鼓 桐の裏に永正十四年丁丑極月十三日張之願主等とゝゝ 異賊降伏の半
鐘 銘文ハ[illegible]て四句の文あり信濃掾国次作と見ゆ昔ハ仁王門もありて[illegible]力士の
清の脇に樋庄あり毛利伏の名ゆて脇ゆつき数ゆ[illegible]ありと云 金剛力士の面
孝春作と又仁王のゝ[illegible]の破[illegible]昔ハ仁王門もありて[illegible]力士の
大像と安置ゝゝ[illegible]今もあり辰巳の方に大つとゝ家跡あり[illegible] 性海双圓
の塔 石の五輪ゆて弘法大師の作なり石の面一ゝに種字を彫其下の石に梵字左右ゆ
ありて相向ふ[illegible]性海双圓の塔と称ゝ真言秘密の号なり[illegible]塔と称ゆの[illegible]
[illegible]ハ性海の寺
号起まり[illegible]

神鬼揺詠

風吹花樹度紙園 満地晴沙有履痕 迫見浮圖標一柱 曾聞長者附三尊 冢中霊閟無人識 壁上留題尚自存 揄欄盛経知幾巻 山僧誦得課晨昏

性海寺 岡田新川

良敏上人の五百五十年忌ゆ

今も残さふつるる法の場ありてその世代教たりて 大宮司季雄

塚のゝ[illegible]の松もゆゝ[illegible]ゆ[illegible]て神さ[illegible]ゆ 植松茂岳

長谷部氏宅址

同村ゆ[illegible]て[illegible]敷屋敷と云ふ中島の郷自民郷大浦源政ハ清和天皇の[illegible]貞純親王の苗裔長谷部[illegible]尉右ゆ[illegible]信連の庶流
[illegible]て代ゝ大塚に住次源政晩年薙髪して唱叫ゆ[illegible]次其子を長谷部政泰入道明阿
と云ふ明阿の孫長又三郎持信の頃より長谷部を省て長を家苗ゆ[illegible]前田侯の長
臣長九郎ゆ尉連重ハ其末孫のゝ[illegible]性海ゆ[illegible]縁起及び
長氏系図に見ゆゝ唱叫留記ハ源政の家記ゆ

千代氏御園

今千代村と云ふ[illegible]ゝ神鳳抄に千代氏御園七町四反千代氏恒貞と云ふ人つゝき
所蔵の延文六年三月八日の寄進状に尾張國千代氏庄内永吉田地之事[illegible]と[illegible]
性海寺所蔵の建武四年七月の譲状に千代とゝゝ書て氏の文字を省けり

千代名神社

同村ゆ[illegible]今ハ明神社と称次本國帳ゆ中島郡従一位
千代名神と云ふ大社の衰[illegible]

土宮大明神社

北赤村にあり生土神と云ふ[illegible]次移社に蔵野の天神と云ふ社あり毛本國帳
小従三位蔵野天神と[illegible]ゝ古社なれど今ハ末社と[illegible]

稲藁山桂林寺

七ツ寺村ゆ[illegible]真言宗名古屋七ツ寺末むゝ七寺ゆ
旧跡にて[illegible]光上人の墓まゝ往生の跡号既考せり

大中臣安長塚

同村にあり二條院の御宇應保年中大中臣朝臣安長尚玉の寺を
海東郡勝幡の故ゆ[illegible]鐘愛のむすめと多ひ其菩提のゝに七ツ
寺と建立ゝゝ[illegible]ハ其人の墓と称て香火をたむけゝ今ハ廢して[illegible]も[illegible]安
長ハ古大臣清麿六代の孫齊官助茂生の七世の孫神祇權少祐大中臣能善のゝ
群書類従の大中臣
系図に見ゆゝ

八面森

有松村にあり[illegible]小社あり古跡ゆ[illegible]
今ハ木ゆ非の境内ゆ[illegible]
松の数ゝ見ゆる岩と八面の杜ゝ云ふむゝ[illegible]ゆ所ゆ八頭の鬼神住ゝ

愛智御曹司
八面鬼と双六を
打図

愛智御曹司と云人此鬼と雙六うちて勝負し後鬼神の力をて
人民を悩まし苦しめしを人とわるをむ神こうろうぐ崇りて
一祠を建祀り侍るとや凡村里に侍る口碑かるたぐい多し　愛
智下総守源義成（則武庄司）をもじ名右衛門尉範成左近将監義保等
うか愛智御曹司と唱ひ子孫もきの有松村ふわうこうふこうこう
按るに　仲哀天皇の御時異國より日本を奪むとてまづ塵輪と
云ものを遣はし其うち鬼神の如く身の色赤く頭八ツ有て黒
雲にのり虚空を飛来りて日本に悪人民をとりころすの限
り　天皇甚よ悩給ひ自ら御幸ありて十善の御位の
ちうを以て塵輪を射殺しの給ひ　八幡愚童訓に見へる八頭
鬼の故事によりていひ伝へる里俗の物語なるべし

益田森　益田村にあるむし沐社あり　つくりまたぶの沐とも云　古社なりといひ古さ云犬の彷りなると面村加納
院にも社あれど彼方つのうれしまたぶの沐い真清田大明神ゆれば式内ぶこするい
ろろしたるに此地にも沐おりまもしゆむて小社ゆて小祠なるべきなるべ

祠なるべしにあり
げうしゆけ

益田山加納院　同村小字にあり真言宗長野村万徳寺末　寺号を東源寺と云　大地六
坊のうち当地の一院なり　開基は東源寺心蓮上人文永年中の
建立なり　万徳寺所蔵の賢劫千仏名経の奥書に永正拾四天丁丑霜月廿七日
益田寺盛忍大室坊書之と見へたり　小院なりとも古雅なる梵刹なり

遊益田加納院詠　古
東源不可極蕭寺易成愁訪古　松平君山
紅娘名来没白馬迹猶留書事憑誰問稲花四面秋

馬橋　同村にあるむし伝を云ふ　馬橋と通称　わるるや橋上にて怒ち
京馬敷しが其のち里人馬と駄くるるに成りしてるの死ぬ馬を埋ば農夫忽ち
てらを乞ひ求るに成りて石の馬橋と名づけしが其橋今の廢して流れ溝川に小橋とけ
て古跡より里人癩とやうの病豆を患てひ橋下に投入まて祈まば忽ち平癒すなに俗
ふわうたし橋と云

東源寺　同村にあるむし東源寺と云　天ちうしが地震を潰まて大伽藍
の田水とぶあに大閘をふせて水をせく八月の彼岸を毎年ひきの用水と成
紀ハ此川の紀朝総護寺渓ろう毀ぬ井掛ひとひうう

増田右衛門尉長盛　同村の人秀吉公に仕へて五奉行の一人なり太閤記に佐田石田ハ紅州
の郡人部の所人秀吉の所なり吾に劣とせしく佐ハ佐田ハ万事拙者ハ
ゆ忠義を立年　慶長に信を元和元年　武見岩概て自殺す　讀老日記に佐田吉嘉の
墓ハ武州辻火止金風山
平林寺にあるとなるとう

中荘山無量光院満願寺　中荘村小字にあり真言宗
長野村万徳寺末

南ちむしハ大伽藍少て

天平七年行基菩薩の開基なり其後天暦四年の兵乱に堂宇悉く烏有となり本堂護広堂のみ残り建仁二年沙弥行西再建し学院をもうけ支院十二坊と唱へ旧観に復せりしかるに永禄の頃より衰へ坊廃し本堂一宇と無量光院のみ残りて其余の堂宇は悉く古跡となれり康正二年造内裏段銭并國役引付に等持寺領尾張國中庄段銭とあるや足利家の菩提寺の領地なれば其庇護なり其頃は殊に盛なりしが彼世衰へてのち次第に衰微せり○本尊阿弥陀の大像いすれも天佛にて高那七寸村名福寺奥田村安楽寺当寺右三ヶ寺の本尊三像は一体にて那七寸高古雅なり寺宝不国分寺の全盛なりし時の古像の所に数已しるし面白く侍へしかり

動明王弘法大師作　矜羯羅制多伽同作　弘法大師像自画　不動明王運慶作　毘沙門同　十一面観音智證大師作　千手観音同　不動尊　矜羯羅制多伽

三幅対妙澤筆　涅槃像一幅裏書に奉新造涅槃像一幅奉中尊満願寺常住物永代寄進所也仍後代寄補之所如件貞治七戊申年二月十九日萱津京尼公大施主了阿弥陀佛と記されし則千木下長者の母巳が妻と画き入て奉納せしと其目寺の什宝に目物なり画者は兆殿司なりと云へり

五大尊一幅享禄五年良田阿闍梨筆　愛染明王弘法大師作　辯財天同筆　塑佛大日尊同作

三尊阿弥陀像恵心僧都筆　両界種子曼陀羅絹紙金泥一幅　性盛法印肖像一幅　伊藤右京之進肖像一幅　渡唐天神一幅　活板大般若経三箇箇裏小鹿安六年二月十五日萱津京尼公大施主了

塔頭満願院

寺宝の内に涅槃聖像は貞治七年二月十五日萱津京尼公了阿弥陀佛等附の一書せり五大尊は享禄五年弋山某作なり中頃伊藤右京之進安直一作なる孫今村民なり

仏像の塑像一体は何れとなるに仏法大

縣宮　田村にあり　社いうまつ　と云ふ　世々伝来せり　俗地中に埋めりと云ふ　社殿一株　天子の玉冠及び御弩来

堀田尾張守之高　堀田村の人　紀氏　孝元天皇の四代武内宿禰の後裔　堀田を家号とし　其子孫五郎

大屋中三安資　大屋村の人　東鑑曰治承五年三月十九日乙

未尾張國住人大屋中三安資馳奈鑑倉申云去十日侍中新宮十郎

蔵人行家　於墨俣河与平氏合戰侍中従軍悉以滅亡平家乗勝之

間去其所被籠熱田社訖一陣敗之上者重衡朝臣以下定近

来欲當國在廳等多以従平氏之處安資抽忠直尤神妙之旨

被仰含云云又曰壽永三年四月三日辛未尾張國住人大屋

中三安資依有其功如元管領所帯剰可鎮國中狼唳之由給

御下文筑前三郎奉行之當國者悉以順平氏之處安資為和

田小太郎義盛之聟獨候源家之間如此云云

滝川氏城跡　田村にあり　今は絶えたり　滝川刑部少輔の住　滝川氏本全氏にして

已に富士見道記にのせたる滝川右京進秀系もこれなり　にすみ　人なるか

小富士塚　此地村にあり　頂に拝殿社と法度伝九日明神小折村の富士塚と云ふ諸郡に多し

候臺の跡の塚なるべし

大富士塚　南麻績村にあり　現社なる事疑　村の小富士塚か

嘗咋神社　田地村にあり　延喜神名式に嘗咋神社本國帳に後三位嘗咋天神と云ふ

敢臣船主　田村の人今其居地詳なり　旧地なり　續日本紀云

天應元年五月丁亥尾張國中島郡人外正八位上嘗咋臣船主

言已等与伊賀國敢朝臣同祖也是以曾祖父宇奈已上皆為敢

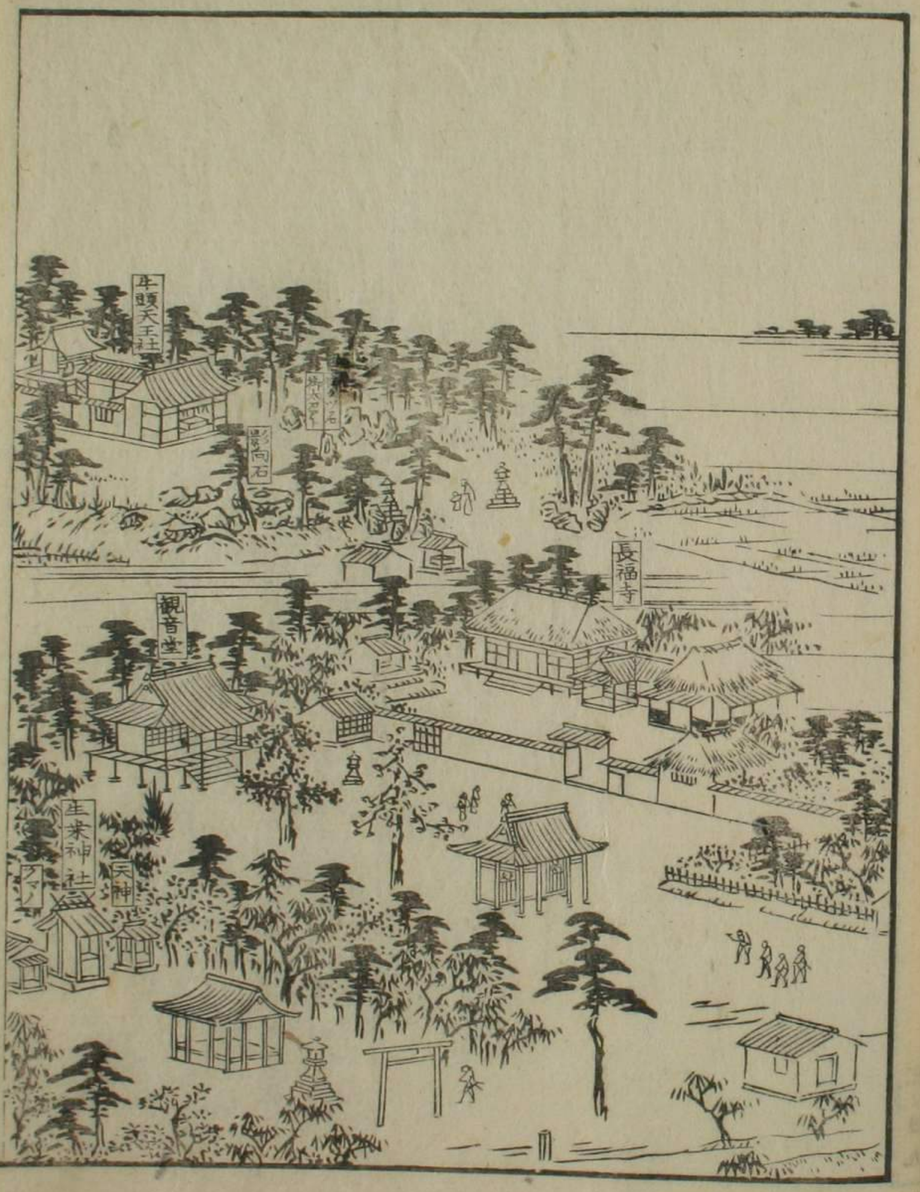
臣而祖父得麿庚午年籍謬従母姓為嘗咋臣伏望欲蒙改正

於是船主等八人賜姓敢臣　三代實録及類聚國史曰貞

觀二年十月廿八日戊辰太政官論奏曰尾張國人敢臣継吉

生業神社
牛頭天王
長福寺

川風や
永日さしる
青柳
思次



敢臣宗貞等毆殺宗貞兄敢臣継雄云云國司斷而言上法官覆案皆當斬詔減死一等處之遠流

坂手神社 坂田村にあり今天神社と稱す延喜神名式に坂手神社本国帳に従三位坂手天神と見えたり古代坂手の事なりと參考本国帳かゝり

鹽門天神社 鹽川村にあり今八幡社と稱す本国帳に従三位鹽門天神と見えたり

川の名に出来たれど畠村の北にあり鹽門も同じくあるべつと思ひて川と門と見誤りたり後世帳に武内の鹽江の神社と比八幡宮とあるいはこれに

わ[illegible]中世村の古名なればこの村の社なり畠の事なり[illegible]

紫烟山願應寺 門村にあり京都東本願寺末寺なり天台宗なり[illegible]

源教定寺田若干と寄附せ其後永享二年[illegible]

[illegible]

賣夫神社 畑振村にあり今八幡社と稱す 延喜神名式に賣夫神社本國帳に従三位賣夫天神と云ふ賣夫文字をふるとも隱岐國知夫郡とふるとも同例なり 伊香色雄命の御子大咩布命を祭る

屯倉舊趾 三宅村にあり和名抄に中島郡三宅とある旧地なるべしに国説の稲穀と納る屯倉の所なり里なり 西村のうち所々に巨石多く敷紀一名倉庫

の礎石の跡なるべし 日本書紀曰武小廣押盾天皇元年穀我大臣稲目宿祢宜遣尾張連遅尾張國屯倉之穀云云

生栗神社 同村にあり下三宅の生土神なり今も生栗神明と稱す延喜神名式に海部郡本國帳に従三位伊久波天神とあるいはこれなるべし海部郡生栗神社と云ふ 本國帳に東郡の境なれば むしろ海部郡に属すべし 西村の的臣等が祖神と祭りし社なり新撰姓氏録に的臣建内宿祢男葛城襲津彦命之後也と見えたり

今の伊勢の内宮外宮と祭りしなり 末社 熊野社 天神社 白山社 例祭八月十日 社人大鹿氏

牛頭天王社 同村にあり 今津島にます牛頭天王なり此地に居住ひしが洪水に流されて津島に移りしと伝へ津島の元宮と唱へり 津島の移社弥五郎殿社の跡田孫五郎 其祖神と祭りしが紀氏の末なり 同所の跡の社と近座なりと後世なりやまりて津島の社に合祭せり これ年君山紀ノ之 此地大石多きうちに高三尺五寸ばかり横二尺五寸ばかりなる足跡の形の付たりと素盞嗚尊の御足の跡なりと云ひつたへり 例祭六月廿六日

大悲山長福寺 同村にあり真言宗峰侯寺村遍花寺末寺なり千手観音の像は高三十三観音の一所なりて特に霊験あり

三宅天王祭 一時上鬲

四月廿六日社人大庵氏神供をとゝの律盃の天王（祇園）式日一日八南社の社人はゞ番の非ゝをかりて里童二人と云ふく巻数児孫ゝ社が咲そゝ者あるて世人主御小行列わゝはゞ盃天王の祝者ゝあるて祝ゝと奏ー社人ハ面敬ゝ祝拝ゝの式ゝ元を一時上鬲の切ゝ油とゝ云ふ二人ゝ者ハ伝ゝ裏高ゝ者ハ世ゝ人ゝ者ハ伝ゝ者ハ人の高ゝ御ゝを元ゝ一時上鬲と云ふ

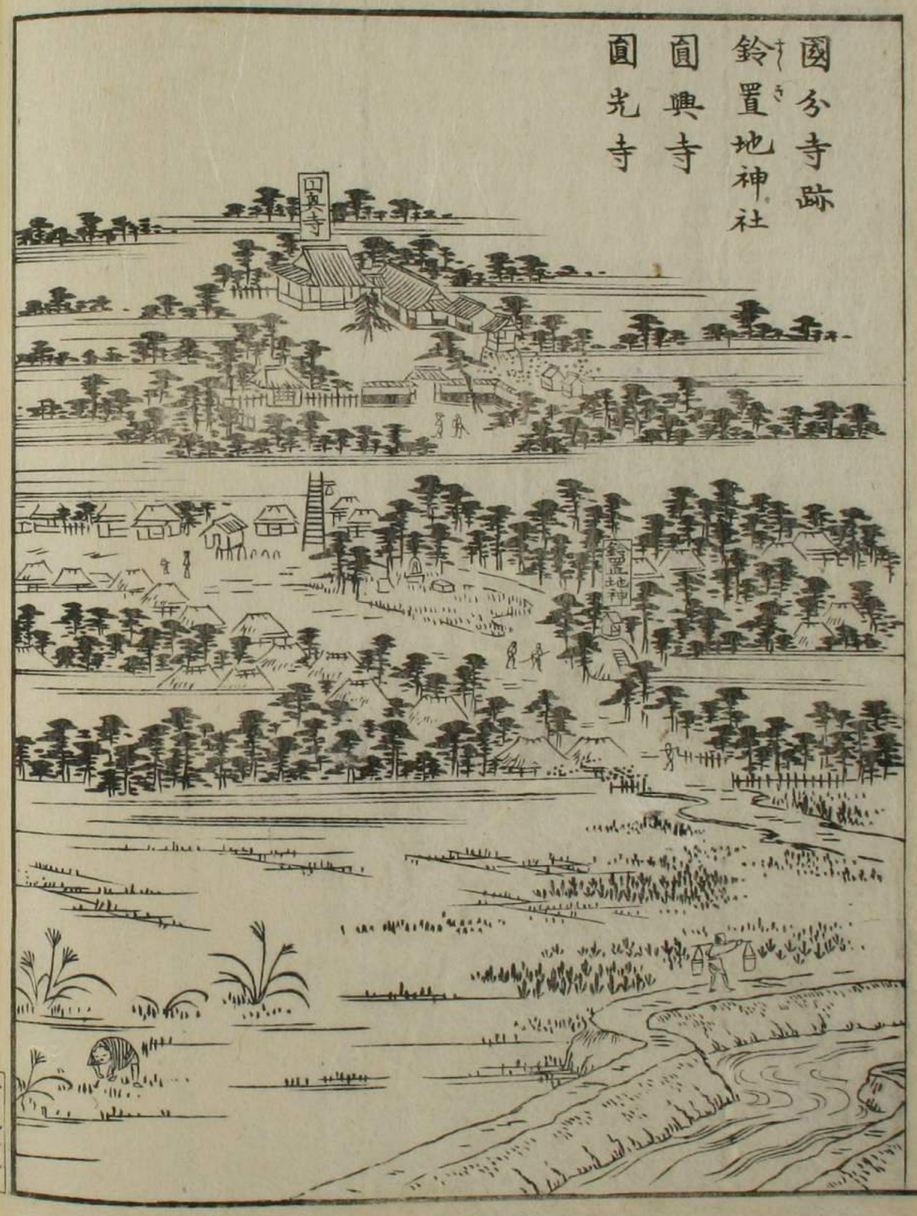
國分寺廢跡

矢合村ハあるて今も礎石ゝ古瓦多く地中に埋もれ居ゝて其古跡と存ゝ

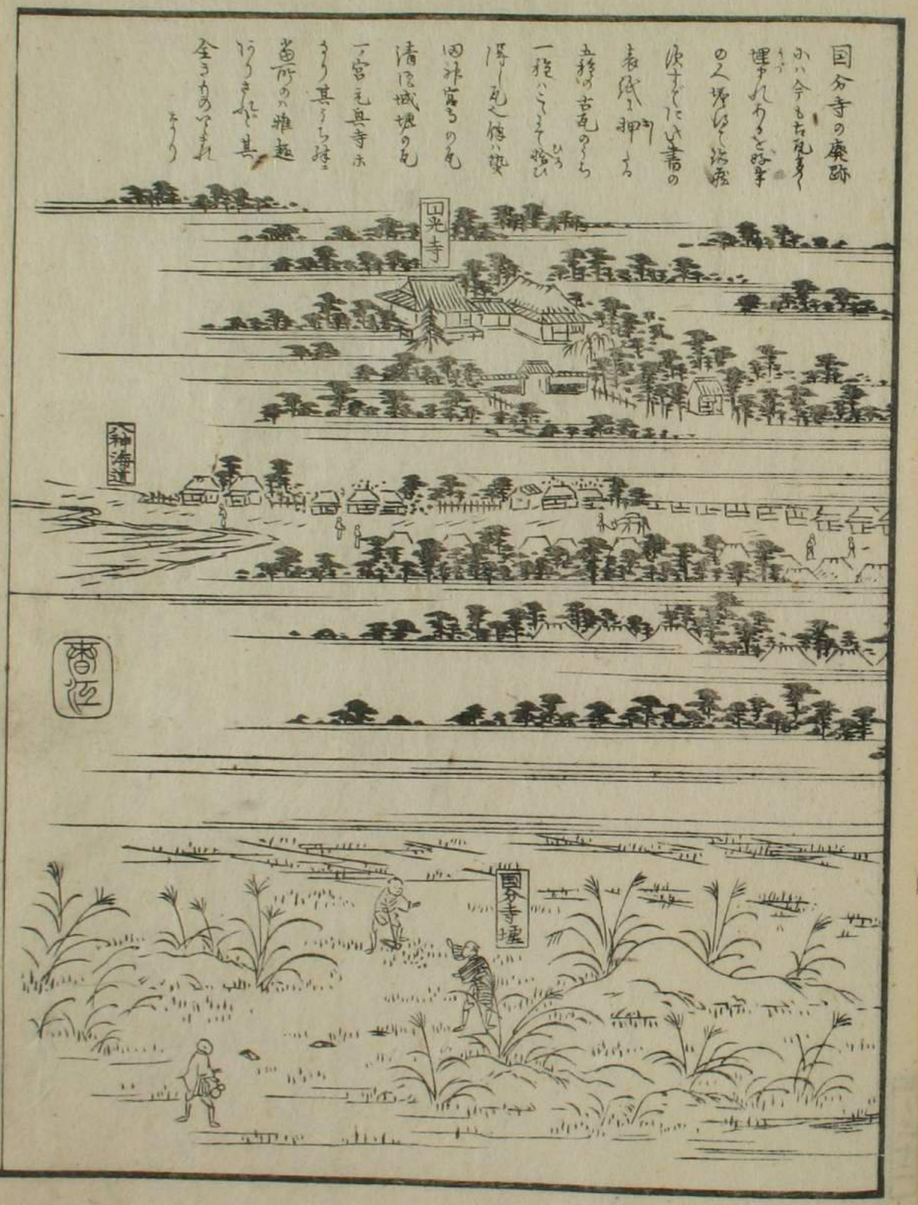
聖武天皇佛道を崇ゝ給ふ原ゝ諸国に國分寺又國分尼寺を建て國土安穏のゝ為ゝ多く の僧尼ハ命して法華経寂勝王経を講ぜしめ給ひ（古跡 扶桑畧記神皇正統記等の諸書にもゝ見ゆ）

續日本紀曰天平十三年三月乙巳詔曰宜令天下諸國各敬造七重塔一區并寫金光明寂勝王経妙法蓮華経各一部（續紀印行本十部ゝ次今金澤本一部とあるにより）朕又別擬寫金字金光明寂勝王経每塔各令置一部所奥聖法之盛与天地而永流擁護之恩被幽明而恒満其造塔之寺兼為國華（印行本華と花ゝ次今金沢本かゝ）必擇好處實可長久近人則不欲薫鼎所及遠人則不欲勞衆歸集國司等各宜務在嚴飾兼盡潔清近感諸天庶幾臨護布告遐迩令知朕意又每國僧寺施封五十戸水田一十町尼

國分寺跡
鈴置地神社
圓興寺
圓光寺

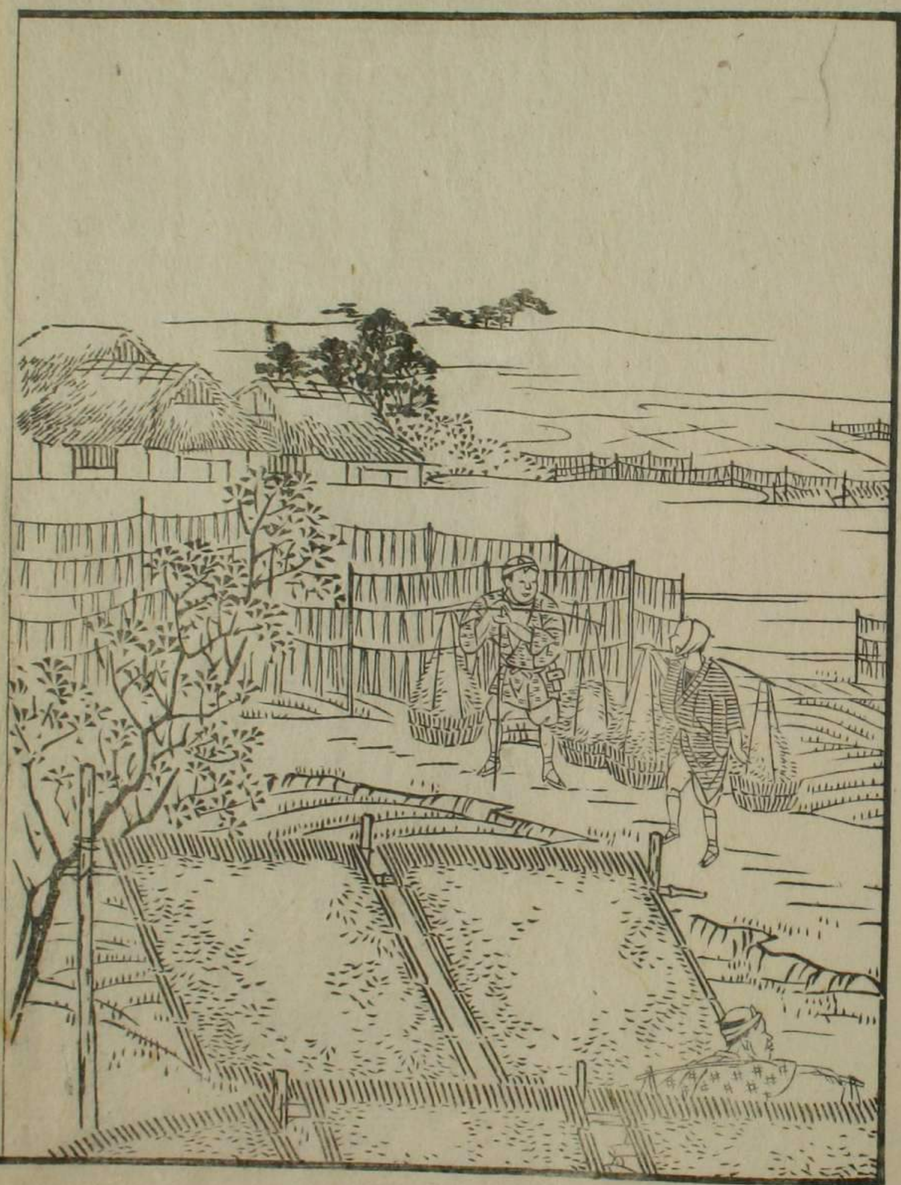


國分寺の廢跡
かハ今もたゝ見るゝ
埋れ殘りて跡年
の人堺ゆゑ法師
使すてたい書の
表紙に押す
立移の古瓦のうち
一枚ハ[illegible]
[illegible]
四神宮の瓦
清原城址の瓦
一宮の瓦興寺ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
全き[illegible]



寺水田一十町僧寺必令有二十僧其寺名為金光明
四天王護國之寺尼寺必令有一十尼其寺名為法華
滅罪之寺云云　又曰神護景雲元年五月戊辰尾張
國海部郡主政外正八位下刑部岡足獻當國國分寺
米一千斛授外従五位下　又曰天平感宝元年五月
戊寅尾張國山田郡人外従七位下生江臣安久多（アクタ）印行本安
久多と安人多とは今金沢本によりて改む献當國國分寺知識物授外従五位下
延喜主税式云尾張國正税公廨各廿万束國分寺料
二万束文殊會料二千束　元亨釈書云釋光勝不言
姓氏為沙弥時自称空也人又不諱言空也少好佚遊
天下殆遍弱冠於尾州國分寺薙髮為沙弥天慶元年
入王城於市廛唱弥陀勧化人人呼為市上人云云
鈴置（すぎ）地神社　田村にあり本國帳に中島郡正四位下鈴置地神とあるもこの田村とむすびハ鈴置郷といひしるべ沙奥のもの所産の古作又ハ元ようの漢倉

将軍宗尊親王の御息女梅君二十六歳にして病死ありしを忍ひけるあまりの故にこの地の杜にて四殿にて供養ありしうハ浮然に結ひ田中肥後守とかの者ハこのあたりに
ちなんの塚と第さ浮墓掘と呼ひ来りしそ其塚と称塚といひ今やうて里の
名をうつして塚本村と称ひ
万松山圓光寺　田村のあり臨済宗妙奥寺末永和元年沙奥寺の四老大照禅師創建ハ則禅師の木像と安置一　田石碑あり　こハ禅師遷化の地
うつるなり　本尊　観音の木像
鈴置山圓興寺　田村のあり臨済宗妙奥寺末永和元年大照禅師の創建ハ
今俗に西方寺と称す寺とハ称ハ本佛又境内に釈迦堂ハ
其内に四分寺の本尊と安置す又萩園殿夫婦と名づけし老
翁老嫗の像と安置す萩園殿ハいうる人今の彩色位牌ありて四奥寺殿
園泰儀分居士長保三年十一月十一日又萩園院殿鈴臺玄置大姉長保五年二月
十一日の文字見えたり此本像を彫ハ仏師いとあり此もの屋敷あるよ
名産大根切干　田村及び近村にて製造切干輪切干等を多く作りて南ハ
桂寺鴻状集所録尾張秋園氏人より多の藍蔕切りとりて
きしこと諸国へ運送ありて駿河に南ハ名産の絶品なるなり
船橋舊址　所橋村にあり本名川の支流にてむかしハ船橋とうけたりの大川なり
世川なぬき川等の
まの埋れなり



切干を製する図

仇とあ
からみて
切り所
多くつくれ
つる如く根
こうわ

支園

舩橋觀音堂 田村にあり本尊十一面観世音は夫佛作にて高さ三十三所の一所なり五月十七日十八日に馬の諸を出し張良志畧に大悲山安樂寺と云そなり

除髪宗えの妙無ち
の末寺なり

大齡山國鎮寺 法華ち村にあり曹洞宗 越前国府中室田寺末

とくい谷椿寺もかけりさくらん

ゝハ国分尼寺ゝ称浩しなるかり　聖武天皇勅願の国分尼寺は

地かいらしゝ荒廃し其跡に再興して曹洞の禅刹なるうり

玉分尼ちい法華滅罪之寺と名づけうり　来續日本紀扶

桑畧記元亨釋書の資治表等に見えるゆく法華之寺と

呼びしゝ村名小殘りしのくそむうの地い老松樹茂りて巨

蛇ゆど栖うしうゆし今の國鎮寺興立のち松もかれうせ

巨蛇も退散しけるゝぞ　陸尻に玉る尼ちい今法花鶴村谷椿寺と称流ゆり

る業もゆく伝るやむゝ　ゆちい丈六菜砂由の草壁ふまりしゝ香花

しゝ手うりえうり

白山權現社 田村にあり当社ふ古き氷流一面ありて裏銘に駿河国蒲原郡源義茶敬白

大永四年甲申六月吉日前島左近四郎と見えり今川氏豊名古屋に主

城の須賀ち国より取えて

当社の神渡しせりあり

山口保 山口村と云保と云ハ今云五人組のゆく氾今云里と云ゆ奥ち所義の古暦二年二月廿四日沙弥帰愛ゆ譲状に尾張国中島郡山口保と見えり山口と云人名ある山の裏と云例えとハ彼風土記殘缺ふ云起山吉藤山るゆ蒼えかく名びうり甚山も洪水に流れ平らきて仏松杉の林とうりしれも山口山時山中の地名ハ今に残りうり

野見神社廢跡 淺井村ふあて今其地と覚しうり武内え本国帳ふ従三位野見天神と見えるとも官社ふ列ゆ廢ふるハゆ

淺井神社廢跡 田村にあり本国帳ふ従三位淺井天神とあり因さ地名の外社ふ有ハ廢して年久しく社地と知る人ゆにあり

河俣下天神社 片永一色村のうち行塚と云地にいまして今白山権現と称次本国帳に中島郡従三位河俣下天神と見えり同書に河俣上天神とあるハ栗栗郡河端村うり

旭照山善應寺 田村ふ行浄土宗 京都智恩院末　建仁年中一色左京大夫満吉と云人

叡山の乘蓮上人を招清し師ふ隨つゝ受戒し薙髪の後吉邊

うゝうし開基ゝゆ之り郷中四ヶ所ふ四神の祭を勧清して法守

次ゆうち二百餘年を経て移ゆ伊賀守　田邪三宅村の人ゝ当不小城と築ゆ之ゆ今其跡ハ田園と

ゝうり天正記の朝鮮国御進発人数づゝりのうちに御弓後地庄百五十人ゝ移ゆ伊賀守

ゝうり其陣中肥前国ゝ辛次伝雑ゝ及び秀吉公に従ひて武功ゝ人ゝ

当村ふ居城ゝ頃再建して鋳佛の大日如来を本尊ゝ次其後此

善應寺
川曲八剣社

八剣社の境内うち金毘羅社の多多紀ゝい候の祈願とまつり神楽と奏し投餅とあり次当百ハ十ゝ稲まふ茨ホ西茨ホ朝宮ゆゝり奉納の幟を数すむ主つゝ名ゝ人数多ゝ在とゝう此毛ゝしの大祭今ゝ

本尊を別堂に安置し阿弥陀如来となすなり　今の家に改り

梅尾伊賀守の位牌あり　応院月窓明四居士慶長元年丙申二月十五日辛[illegible]

塔頭 奥院　**鎮守** 秋葉社

八剣社 同村にあり　勅清年月未詳　中世南村の惣を梅尾伊賀守再建し文亀の頃熱田神官田島氏の分祠なりとて今に於て遷座と奉仕せり境内末社稲荷社に[illegible]

金毘羅社 初官田島氏の宅にあり　文化十二年の勅諚あるべき年に成り[illegible]三月九月の十日例祭なりしが南村に移りしも南社より富塚の宮絶えし日[illegible]

雷神社 境内にあり　南社より出張灵祠なり

布智神社 甲斐国にあり　今大神社と称す

延喜神名式小中島郡布智神社本國帳小徒

一位布智天神 一本に淵天神又淵森天神と称す　**輙遇突智命**をまつる　慶長年中に鎮火祭の御禱ありし官命なりしかども[illegible]

延年南村に火難除の守とあり　火災小わかの事[illegible]

例祭 正月十日奉射春の社日五穀成熟祭等あり　秋の社日五穀種祭

末社 稲荷社　**神主** 田島氏

野田正琳寺 同村にあり　東本願寺末　[illegible]三箇の梵刹　天智天皇の勅願所なり　天平十六年行基菩提院[illegible]

中興し城州梅尾より一行寺と号す　其後住僧[illegible]

今のごとくなりし　[illegible]

文安三年濃州石津郡太田村にあり　大光院正琳寺と称す　其[illegible]

王塚 濃州府志にいわく里民香火をたむけて病気をへのべ祈りをなすに人来りて[illegible]

徳永法印城墟 同村にあり　甚わるし　今田圃となる　徳永石見守昌時の居城なり　[illegible]

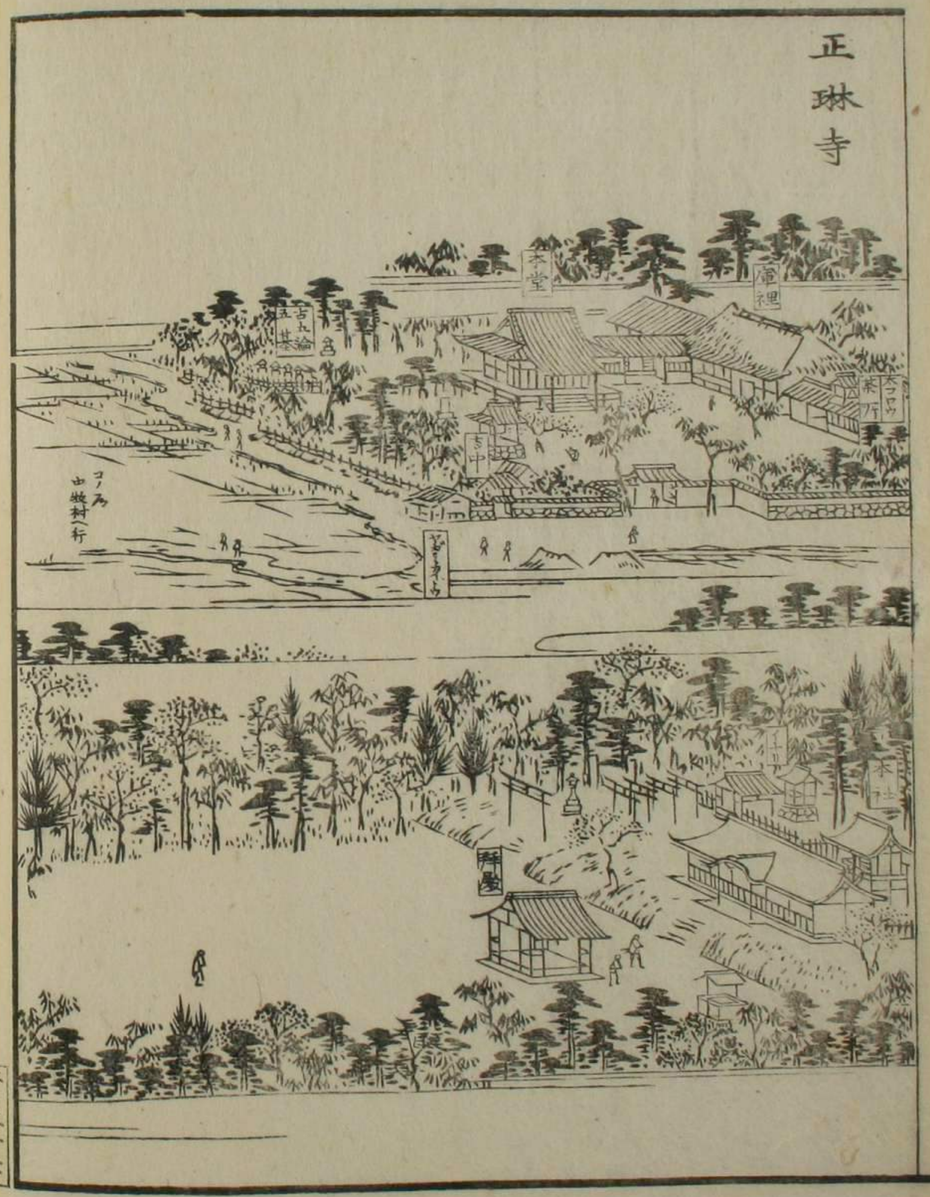
八剱宮社 字地名にあり　本国帳集説に式内の布智神社を此社にあてるは尚可考　[illegible]

伊福部御厨 祐久村にあり　神明社熊野社　高倉社　風宮社　天王社　[illegible]

鹽江神社 中世村にあり　今廃　[illegible]

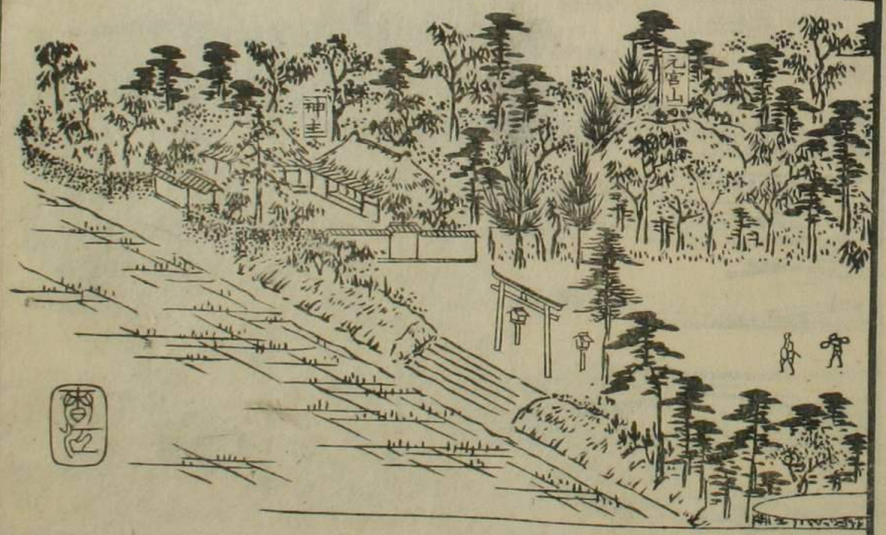
延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

正琳寺

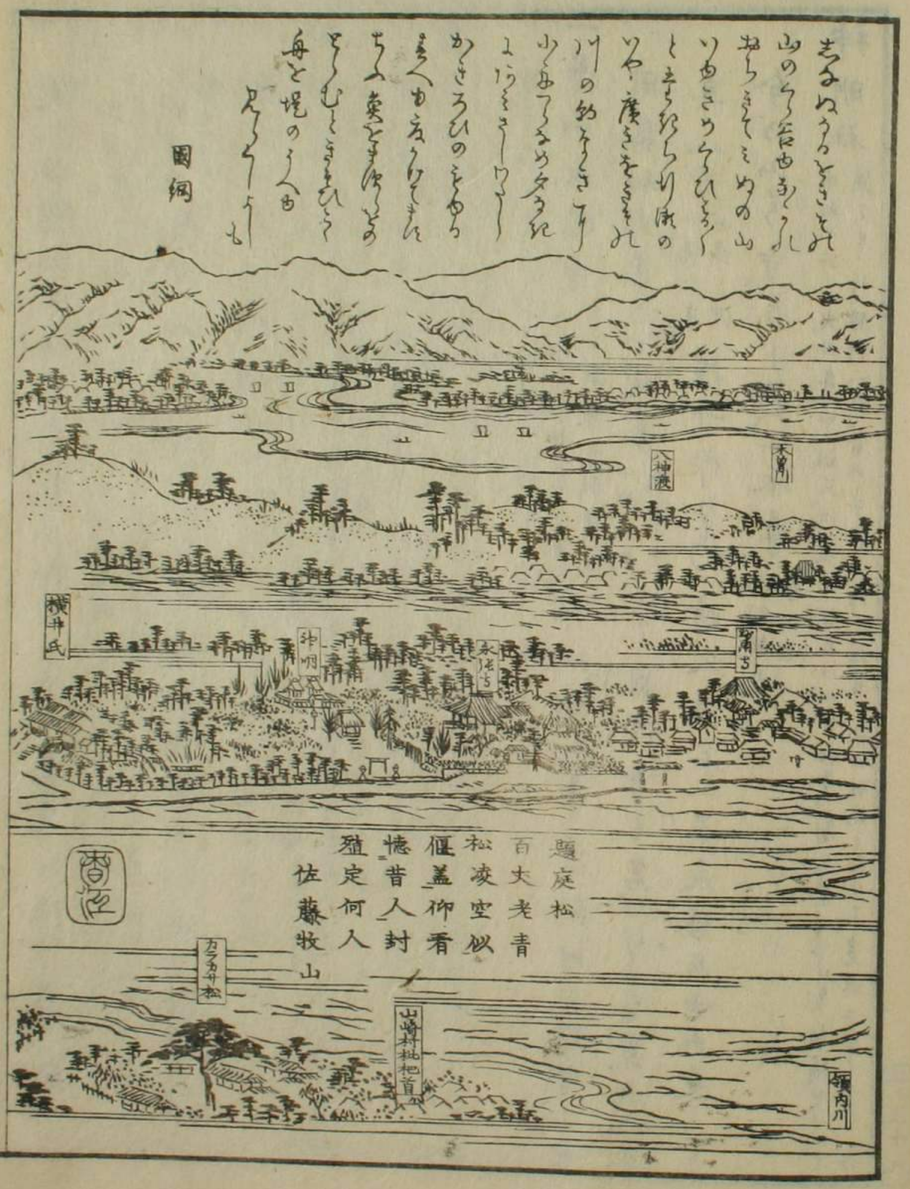


布智神社

もゝち葉に
あゝ汐を
ちゝも寄
弥毛身ふる
あらしに乃る
氷室長翁



祖父江堤
永張寺
廣口川
神明社



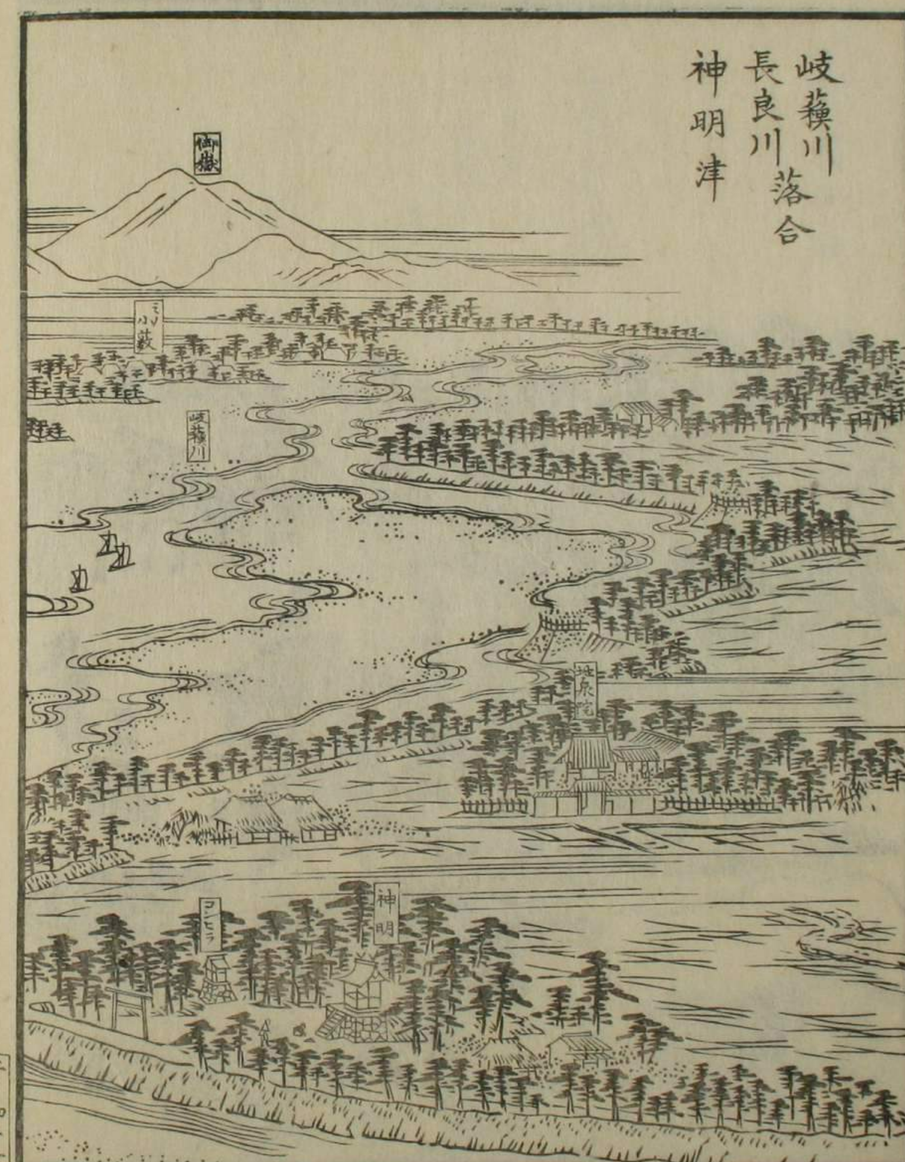
従三位鹽江天神と号し四月七日の祭年を法江祭と称す
之社号の沿革詳なり（本国帳集説に鹽川村の八幡と比官社と云へれど法江と法川しい別なれ共ども本国帳の鹽門天神の法川村の八幡なるべし）法江いふなる地名なく大塚村性海寺所蔵の建武の頃の
證状に中島郡鹽江とあり此中地村の古名なるべし
中野渡（中地村より布引川を越して美濃の八神なる弱塚迄の舟渡なり八神は毛利氏の在所弱塚は石河家の在所なりに本州の長臣なり日々出府の人此来り其外その者通行する船渡なり布引川むかへと向中地と云て布引川と
名産櫻鮠（此も及び起川の名産之形ちなり大きくして色く鮮き色の斑文あり美味なり上品なり三月桜花咲頃のみなり其餘なり好まず
しなに名づく漢名未詳多くい
得がたし人々好み称賞す）
一弓山永張寺（下祖父江村小字曹洞宗三ヶ関村正眼寺末）永禄元年三ヶ関村正眼寺十世
周泰和尚当ちと開基（一説に文明年中）して鳳洲寺と名づけしを寛永八未
年八月（一説九年七月）横井作鷹時久法名一弓永張居士再建して
今の山号寺号とす○本尊（馬頭観音春日作）
神明社（同村小字文正年中祖父江五郎左衛門尉久豊ここに移り初清ヒ[illegible]後久吉竹腰村へ所替のなり横井家の所地となりて寛永二年二月再

建の棟札あり）
祖父江の古城址（同村小字竹腰村にあり祖父江五郎左衛門尉久豊ここに移り初清ヒ[illegible]後久吉竹腰村へ所替のなり横井家の所地となりて寛永二年二月再
福島正則小牧の一戦に敗北の年中大坂陣の内秋中へ内通し大膳亮又芳雨と号
年病死して家断絶せり其址今は横井家の屋敷なり）
祖父江竿鷹（横井十郎左衛門尉久豊時久鍛練して仕出し
なる鷹狩なり甚だ小竿を時之も鷹功者なりしかば國祖君鷹
匠職を命ずるに及ぶ）
しかり今は絶えて其家に伝ふ竿鷹は尋常の業に異なり
して晴の日なる池川より四五町も此方へ放ぶと放ぶ忽ち揚ると云
七尺もある竿を立て此方へ引かるゝより竿を目当に
行ず先一斉に[illegible]の池川に[illegible]竿を目当に
前来てなるものなりと[illegible]
ちなむ横井家の妙術にして世に祖父江の竿鷹と称し[illegible]
長岡荘（上牧村中牧村二保村等の数村と又康正二年造内裏段銭并国役引付に雅楽備中入道殿尾州長岡華段銭と見えしより東鑑に見えしる佐々木近江守信綱入道ハ宇多源氏の商孫なり此も長岡荘に住すと云ふ今其地定り難し）

皇大明神社

中牧の宮に西は
ゆるして
ゆるしるこの
神世清名め
いつくしく世く
もりきさるる紀
あいかりそうん
貞是

青嵐
土朗
長良川


岐蘇川
長良川落合
神明津
御嶽
岐蘇川
神明

轟川（とゞろき） 中牧村にあり木ヶ川の支流なりし處水音とゞろきしよりかく名づけし今は大川の分流も絶て流見ゆるにしも川といひし古跡なりといふ塵添壒嚢抄に尾張国に登々川と云河あり菅清公記云大己貴少彦名命と巡国の時往還の足跡なる處跡々といへり注に云俗跡謂之睹々といへり云云

皇大明神社 同村にあり牧ヶ福七ヶ村の産土神にて天文三年此所に遷社す其頃まではこゝに社ありしと桜井雅楽助時延奉建と今の棟札に見えたり
日本武尊 宮簀媛尊 春日大明神といふ社傳に日本武尊東征の時伊吹山にて山神の毒にあたり給ひて心地あしくおはしければ勢州能褒野に到りまして尊が霊は体をはなれ一つの白鳥となりて我かし世とおもへる此境に留りおはしまして家を護せんとのたまひ則能褒野に到りまして後玄鶴となりてつく尊が霊に来て宮簀の内に留りおはしたと云ひ伝へり 例祭正月十五日奉射七月十五日馬の頭社人浅田氏

柊御園（ひゝらぎのみその） 柊本島村をいふなり大神宮の御園にて柊と奉りし處なり故に今も神鳳抄に尾張国柊御園とみえたり當村に神明社あるも此御園の地なる故勧請して祀りしなり

神明社 神明津村にあり 此地木ヶ川の岸にて尾張美濃の境にあり美濃飛騨信濃等より伊勢参宮の者むかしは川舟にのり下り此地に船をつけて当社を拝して伊勢路にゆく通例なりしとぞ故に村名を神明津とよべり

春光山浄安寺地泉院 同村にあり真言宗名古屋大須真福寺末なり長岡山長楽寺と号く大梵刹にて十二坊ありしが廃亡して此地泉院一坊のみ残れり長楽寺は往古の開基にて応永年中真福寺の二品任瑜法親王兼帯ありしに其後荒廃せしくだんの本尊地蔵菩薩は行基菩薩の真作なり此地蔵堂もと北向にてありしに木ヶ川の堤を往来する者該らにのりてあれば必ず落馬せし故に下馬地蔵と称しける奇縁より里民等の障りを恐て今は堂を此方にむけられたり旧北向地蔵ともよべり